

**平成26年度授業改善アンケート  
調査結果報告書**

平成27年3月

名城大学 FD委員会

# 目次

---

授業改善アンケートについて .....	1
サマリー .....	2
〔調査実施資料〕	
調査概要と対象者属性 .....	4
アンケート用紙 .....	5
自由設定項目記載用紙 .....	7
〔授業科目の改善ポイント〕	
1 授業科目の集計結果 .....	8
2 授業改善アンケート集計結果の見方 .....	9
3 理解度の変化 .....	11
4 調査結果のまとめ .....	14
5 学部別改善ポイント .....	16
〔学部別分析結果〕	
6 理解度を上げるための改善優先項目 .....	18
7 基礎知識別の理解度 .....	30
8 理解度と自学自習時間の関係 .....	31
9 出席率 .....	35
10 出席学生数と出席学生規模別理解度 .....	36
〔設問別集計結果〕	
11 学生評価の時系列比較 .....	37
12 基礎データ学生用設問 .....	38

# 授業改善アンケートについて

---

平素は、本学の FD 活動にご協力いただきありがとうございます。

例年、授業改善アンケートは、90%以上の実施率を誇っています。これも、貴重な授業時間を割いてアンケートにご対応いただく数多くの先生方のご理解のおかげであり、FD 活動に対する熱意の表れであります。おかげをもちまして、今年度も貴重なデータを収集・蓄積することができました。厚く御礼申し上げます。

本学は FD 活動を始動した平成 12 年度から、学生による授業評価アンケートを継続して実施し、授業満足度アンケート、授業改善アンケートと名称は変更されても毎年度の FD 委員会担当において教育力の向上につながるようにアンケート結果の分析や内容を改善してまいりました。

今年度も多くの先生方から授業改善アンケートについてのご意見をいただきました。いただきましたご意見は、FD 委員会が設置した「授業改善アンケートワーキンググループ」(以下「WG」)において、今後の授業改善アンケートのあり方を検討する上での貴重な材料とさせていただきます。

WG では、本学に相応しい授業評価の在り方について、項目の検討に留まらず、「何の為に」アンケートを実施するのか、また、より効率的な授業評価を行う手法を検討していく中で、WEB を活用したアンケートを一部科目で試行いたしました(試行の為、本報告のデータには反映しておりません)。

今回得られた結果を踏まえ、本学の授業改善につなげられる「授業改善アンケート」の実施を継続してまいりますので、引き続き、アンケートの実施においてご協力賜りますようお願いいたします。

名城大学 FD 委員会

# サマリー

---

## 平成 26 年度前期 アンケート調査の概要

### ○学生の理解度（アンケート問 10）の変化（Page.11-12）

全学の学生の理解度は 45.2%で、25 年度前期より 0.4 ポイント減少した。

### ○改善優先度の高い項目（Page.18-19）

高いポイントが示された「改善優先度」の項目については、以下のとおりです。ポイントが高いほど、その項目については改善が求められています。

#### 1. 「興味喚起」 43.2 ポイント

質問項目（アンケート問 11）：この授業によって、学問への興味・関心が引き起こされている※1

#### 2. 「目標到達」 40.7 ポイント

質問項目（アンケート問 12）：この授業で、自分はシラバスに示されている到達目標を達成できている※2

#### 3. 「理解配慮」 31.1 ポイント

質問項目（アンケート問 5）：この授業では学生の理解度を確認しながら進められている

## 平成 26 年度後期 アンケート調査の概要

### ○学生の理解度（アンケート問 10）の変化（Page.11、13）

全学の学生の理解度は 44.3%で、25 年度後期より 1.5 ポイント減少した。

### ○改善優先度の高い項目（Page.18-19）

高いポイントが示された「改善優先度」の項目については、以下のとおりです。ポイントが高いほど、その項目については改善が求められています。

#### 1. 「興味喚起」 42.2 ポイント

質問項目（アンケート問 11）：この授業によって、学問への興味・関心が引き起こされている※1

#### 2. 「目標到達」 40.4 ポイント

質問項目（アンケート問 12）：この授業で、自分はシラバスに示されている到達目標を達成できている※2

#### 3. 「理解配慮」 29.8 ポイント

質問項目（アンケート問 5）：この授業では学生の理解度を確認しながら進められている

(※1)平成 25 年度は「この授業によって、学問への興味・関心が引き起こされた」で測定

(今回は「引き起こされた」→「引き起こされている」へ変更)

(※2)平成 25 年度は「この授業ではシラバスに示されている到達目標を達成できた」で測定

(今回は「自分は」を追加し、「達成できた」→「達成できている」へ変更)

# サマリー

---

## 平成 26 年度 調査結果の整理と分析

- ・本調査の最重要変数である理解度については、4 割程度となった（前期：45%、後期：44%）。おおよそ前回と同じ結果となった。  
学部別にみると、理解度に大きな差があり、後期において、最も高い人間学部では 6 割を超えるが、最も低い薬学部では 26%にとどまっている。概して理系（理工、薬、農）が低く、文系（法、経営、経済、都市情報、人間、教職課程・学芸員課程、全学共通教育部門）が高い傾向を示している。（Page.11、47）
- ・現状学生の理解度と統計的に関連の高い項目として、興味喚起（この授業によって、学問への興味・関心が引き起こされている）や目標到達（この授業で、自分はシラバスに示されている到達目標を達成できている）、理解配慮（この授業では学生の理解度を確認しながら進められている）が挙げられた。  
この傾向は全学部に通じている。（Page.18-29）
- ・理解度と自学自習時間には相関がみられた。自学自習時間が長いほど理解度も高いという結果になり、特に週 3 時間以上の自学自習時間を費やしている学生において理解度が高くなったが、この傾向の度合いは学部によって差がみられた。（Page.31）
- ・理系学部は理解度と自学自習時間の関係において理解度が低くなる授業が多い。この相関関係において、理解度が全授業平均より低い授業の割合は薬学部で 8 割、農学部 7 割、理工学部 6 割となっている。（授業単位での集計値 Page.33-34）
- ・授業の出席学生規模と理解度にも相関があることがわかっている。30 人未満と 30 人以上で傾向が変わり、少人数ほど理解度が進む。（授業単位での集計値 Page.36）

# 調査概要と対象者属性

## 目的

学生の視点から授業改善の手がかりを探り、授業改善につなげることで教育の質を向上させることを目的とします。

## 調査方法

アンケート用紙による自記式アンケート  
(一部web上でのアンケートを施行)

## 調査主体

FD委員会

## 実施期間・対象授業・回答者属性

	26年度前期	26年度後期
<b>実施期間</b>	2014.6.23 ~ 2014.7.19	2014.12.15 ~ 2015.1.15
<b>対象授業</b>	<p>学部の授業を担当する常勤教員と非常勤講師を対象とし、平成25年度前期にアンケートを実施した講義科目において実施しました。なお、平成25年度前期にアンケートを実施していない場合は、担当授業のうち最も履修者が多い講義科目において実施しました。</p> <p>ただし以下のいずれかの項目に該当する授業は対象から除きました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育科目</li> <li>・ リレー方式で開講されている科目</li> <li>・ 実験・実習・演習など講義以外の科目</li> <li>・ 履修登録者数が10名未満の科目</li> </ul>	<p>学部の授業を担当する常勤教員と非常勤講師を対象とし、平成25年度後期にアンケートを実施した講義科目において実施しました。なお、平成25年度後期にアンケートを実施していない場合は、担当授業のうち最も履修者が多い講義科目において実施しました。</p> <p>ただし以下のいずれかの項目に該当する授業は対象から除きました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育科目</li> <li>・ リレー方式で開講されている科目</li> <li>・ 実験・実習・演習など講義以外の科目</li> <li>・ 履修登録者数が10名未満の科目</li> </ul>
<b>回答者属性</b>	<p>○721設定授業中 675授業で実施 実施率93.6%</p> <p>○実施授業の履修登録者数:63,503人 有効回答者数:46,192人(回答率:72.7%)</p> <p>○教員コメント記載件数 246件 (675実施授業中 246件のコメント 記載率36.4%)</p>	<p>○695設定授業中 653授業で実施 実施率94.0%</p> <p>○実施授業の履修登録者数:57,987人 有効回答者数:38,468人(回答率:66.3%)</p> <p>○教員コメント記載件数 231件 (653実施授業中231件のコメント 記載率35.4%)</p>

## 開講学部別回答者数

	26年度前期			26年度後期		
	実施 授業数	学生		実施 授業数	学生	
		常勤 授業受講	非常勤 授業受講		常勤 授業受講	非常勤 授業受講
法学部	85	1,955	2,902	75	2,006	1,448
経営学部	39	3,259	592	41	2,742	473
経済学部	23	2,585	274	23	1,993	237
理工学部	265	9,353	5,776	267	8,673	4,951
農学部	45	3,371	1,021	40	2,757	574
薬学部	41	3,735	276	39	3,670	202
都市情報学部	36	2,744	464	39	2,170	752
人間学部	25	1,841	443	23	1,679	283
教職課程・学芸員課程	23	424	653	15	273	375
全学共通教育部門	93	884	3,640	91	731	2,479
計	675	30,151	16,041	653	26,694	11,774

(※)本報告書の結果(P.11以降)は、冊子刊行納期の関係上、平成27年1月19日までに回収した授業で集計しております。

また、web上でのアンケートを施行した授業は、実施方法が異なるため、集計に含まれておりません。

# アンケート用紙

学籍番号 ( )

科目名 ( ) 学年 ( 年)

## 平成 26 年度前期・後期授業改善アンケート

名城大学 FD 委員会

このアンケート調査は、学生の皆さんの視点から授業改善の手がかりを探り、授業の改善につなげることを目的として実施するものです。なお、ご回答いただきました内容は授業改善のみに使用し、成績評価等には一切影響しませんので率直に回答してください。

■ 回答方法：質問 1～12 については、もっとも当てはまる数字を一つ選び、○をつけてください。  
質問 13・質問 14 は、教員の指示に従って、質問文を記入してから回答してください。  
質問 15・質問 16 は自由記述です。

1. この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識が十分にある。  
5.強くそう思う 4.ややそう思う 3.どちらともいえない 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない
2. この授業に対する1週間あたりの勉強時間(授業時間除く)は。  
5.週3時間以上 4.週1時間・3時間未満 3.週30分・1時間未満 2.週30分未満 1.していない
3. この授業では板書や資料等の文字は読み取りやすい。  
5.強くそう思う 4.ややそう思う 3.どちらともいえない 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない
4. この授業では教員の話し方は明瞭で聞き取りやすい。  
5.強くそう思う 4.ややそう思う 3.どちらともいえない 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない
5. この授業では学生の理解度を確認しながら進められている。  
5.強くそう思う 4.ややそう思う 3.どちらともいえない 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない
6. この授業では教員は私語に対し、きちんと対応している。  
5.強くそう思う 4.ややそう思う 3.どちらともいえない 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない
7. この授業に対する教員の意欲や熱意を感じる。  
5.強くそう思う 4.ややそう思う 3.どちらともいえない 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない
8. この授業は学生に興味がわくように工夫して進められている。  
5.強くそう思う 4.ややそう思う 3.どちらともいえない 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない
9. この授業では授業の大切なポイントがきちんと示されている。  
5.強くそう思う 4.ややそう思う 3.どちらともいえない 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない
10. 自分はこの授業が理解できている。  
5.強くそう思う 4.ややそう思う 3.どちらともいえない 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない
11. この授業によって、学問への興味・関心が引き起こされている。  
5.強くそう思う 4.ややそう思う 3.どちらともいえない 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない
12. この授業で、自分はシラバスに示されている到達目標を達成できている。  
5.強くそう思う 4.ややそう思う 3.どちらともいえない 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない

### 13. 各教員による自由設定項目①

<質問文を記入してください>

- 5.強くそう思う 4.ややそう思う 3.どちらともいえない 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない

### 14. 各教員による自由設定項目②

<質問文を記入してください>

- 5.強くそう思う 4.ややそう思う 3.どちらともいえない 2.あまりそう思わない 1.全くそう思わない

裏面へ進んでください

# アンケート用紙

---

15. この授業で良いと思った点について、何でも結構ですからお聞かせください。


16. この授業で改善したほうが良いと思った点について、何でも結構ですからお聞かせください。


以上でアンケートは終わりです。  
ご協力ありがとうございました。



# 自由設定項目記載用紙

氏名 ( )

---

科目名 ( )

平成 26 年度前期・後期授業改善アンケート 名城大学 FD 委員会  
(各教員による自由設定項目に係る記載用紙)

このアンケート調査は、学生の視点から授業改善の手がかりを探り、授業改善につなげることで教育の質を向上させることを目的として実施いたします。

前期に引き続き、学生の意見の集約に力を注ぐため、学生アンケートのみを実施することとなりました。また、教員が任意で2つまでアンケート項目を設定できるようにしております。項目を設定される場合は下記に質問文をご記入ください(設定されない場合は、「設定なし」に○を付けてください)。

ご協力いただけますようお願いいたします。

13. 各教員による自由設定項目① ※「強くそう思う」～「全くそう思わない」の5段階の質問です。

<質問文を記入してください>

(設定なし)

14. 各教員による自由設定項目② ※「強くそう思う」～「全くそう思わない」の5段階の質問です。

<質問文を記入してください>

(設定なし)

# 1 授業科目の集計結果

<各教員へのフィードバック様式見本>

【名城大学FD】平成26年度前期・後期授業改善アンケート  
集計結果

●●学部	科目名: ●●●●	時間帯: ●曜日●限
履修登録者数: ●●	回答者数: ●●	回収率: ●%
平成24年度実施科目名: ×××	平成25年度実施科目名: ●●●	教員名: ●●●●

※平成24年度、平成25年度の授業が本授業の比較対象にならない場合、表、グラフに反映されません  
※少人数で算出した数値であることに留意下さい

## ■学生からの自己申告

### 【この科目の基礎知識(%)】

この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識が十分にある

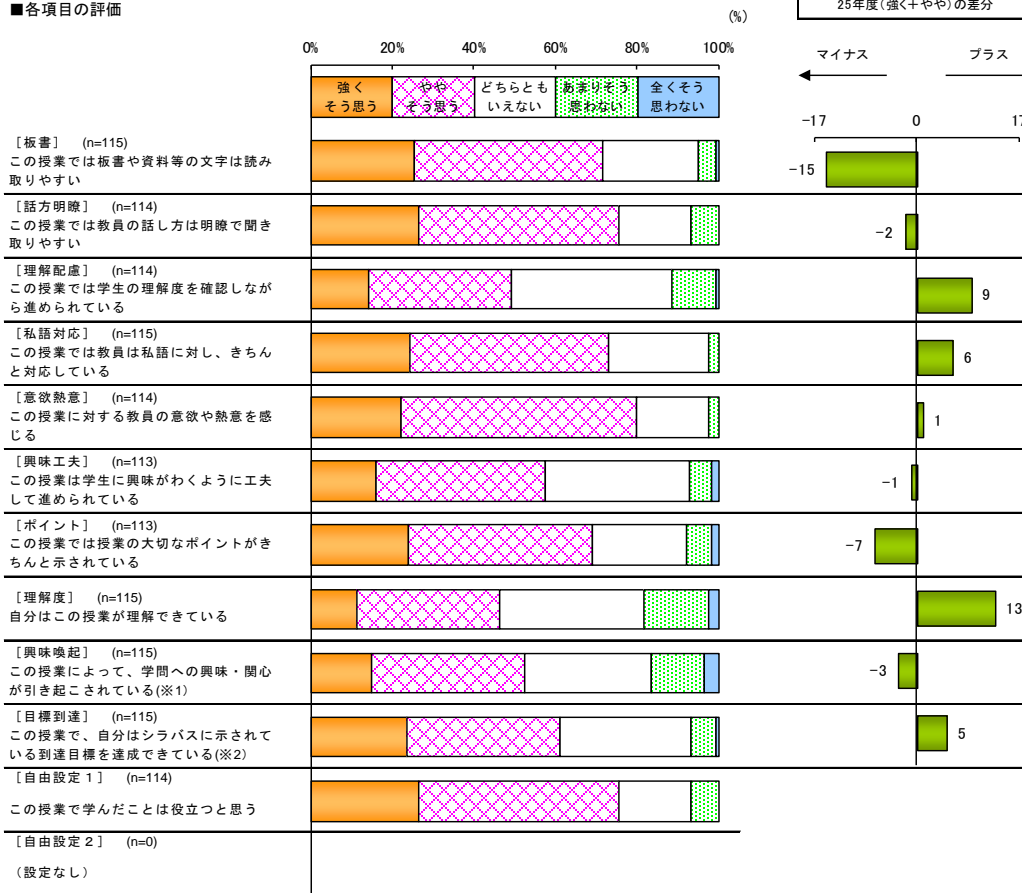
	強く そう思う	やや そう思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	全く そう思 わない	無回答
平成24年度 (N=80)	9	28	29	26	9	0
平成25年度 (N=117)	4	25	25	35	11	0
平成26年度 (N=115)	5	24	44	20	8	0

### 【この科目の自学自習時間(%)】

この授業に対する1週間あたりの勉強時間(授業時間除く)は

	週3時間 以上	週1時間 -3時間	週30分 -1時間	週30分 未満	勉強して いない	無回答
平成24年度 (N=80)	5	14	19	28	35	0
平成25年度 (N=117)	2	7	14	18	59	1
平成26年度 (N=115)	4	11	13	27	44	0

## ■各項目の評価



コメント

## 2 授業改善アンケート集計結果の見方

### 授業改善アンケート集計結果の見方

【名城大学FD】平成26年度前期・後期授業改善アンケート  
集計結果

●●学部	科目名: ●●●●	時間割: ●曜日●限
履修登録者数: ●●	回答者数: ●●	回収率: ●%
平成24年度実施科目名: ×××	平成25年度実施科目名: ●●●	教員名: ●●●●

※平成24年度、平成25年度の授業が本授業の比較対象にならない場合、表、グラフに反映されません  
※少人数で算出した数値であることに留意下さい

#### ■学生からの自己申告

P.10【2】  
参照

##### 【この科目の基礎知識(%)】

この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識が十分にある

	強く そう思う	やや そう思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	全く そう思 わない	無回答
平成24年度 (N=80)	9	28	29	26	9	0
平成25年度 (N=117)	4	25	25	35	11	0
平成26年度 (N=115)	5	24	44	20	8	0

P.10【4】  
参照

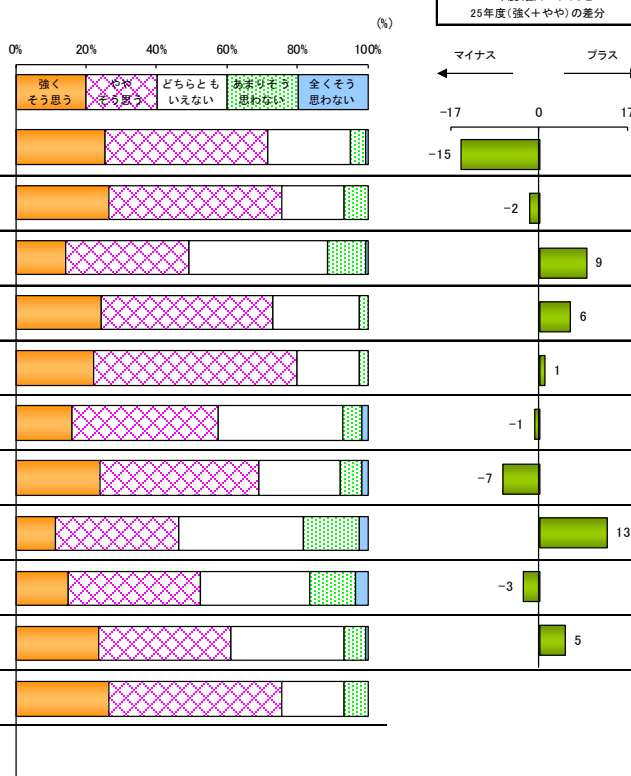
##### 【この科目の自学自習時間(%)】

この授業に対する1週間あたりの勉強時間(授業時間除く)は

	週3時間 以上	週1時間 -3時間	週30分 -1時間	週30分 未満	勉強して いない	無回答
平成24年度 (N=80)	5	14	19	28	35	0
平成25年度 (N=117)	2	7	14	18	59	1
平成26年度 (N=115)	4	11	13	27	44	0

P.10【3】参照

#### ■各項目の評価



P.10【6】  
参照

P.10【5】  
参照

コメント	教員の
------	-----

## 2 授業改善アンケート集計結果の見方

### 授業改善アンケートの各値の解説（番号は P.9 と対応しています）

#### 【1】回収率

「この授業の履修登録者数」と「この授業の回答者数」をもとに回収率を算出しました。  
回収率は以下の式で表されます。

$$\text{回収率} = \frac{\text{この授業の回答者数}}{\text{この授業の履修登録者数}}$$

#### 【2】この科目の基礎知識（自己申告）

アンケート設問項目「この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識が十分にある」の集計結果（回答した割合）です。

無回答を含んだ全回答者で集計しており、「N」は全回答者数を表しています。

（平成 24 年度、平成 25 年度と実施科目が異なる場合も）過去 2 回分の値を掲載しております。

#### 【3】この科目の自学自習時間（自己申告）

アンケート設問項目「この科目の自学自習時間」の集計結果（回答した割合）です。授業時間を除いた学習時間です。

無回答を含んだ全回答者で集計しており、「N」は全回答者数を表しています。

（平成 24 年度、平成 25 年度と実施科目が異なる場合も）過去 2 回分の値を掲載しております。

#### 【4】各項目の評価

各項目の集計結果（回答した割合）です。

各項目、無回答を除いた回答者で集計しており、「n」は有効回答者数を表しています。

「強くそう思う」～「全くそう思わない」の 5 段階評価をグラフで示しました。

(※1)平成 25 年度は「この授業によって、学問への興味・関心が引き起こされた」で測定

(※2)平成 25 年度は「この授業ではシラバスに示されている到達目標を達成できた」で測定

#### 【5】自由設定項目の評価

各教員が自由設定した質問項目の集計結果（回答した割合）です。

各項目、無回答を除いた回答者で集計しており、「n」は有効回答者数を表しています。

項目設定していない場合は「設定なし」で表示されます。

#### 【6】平成 25 年度科目との比較

各項目、平成 25 年度科目と比較した結果です（但し、平成 25 年度と実施科目が異なる場合は比較しておりません）。

『平成 26 年度の「強くそう思う」「ややそう思う」の合計値』から『平成 25 年度の「強くそう思う」「ややそう思う」の合計値』を引いた結果を表示しています。

値が大きいほど、平成 25 年度より改善した結果になっているといえます。

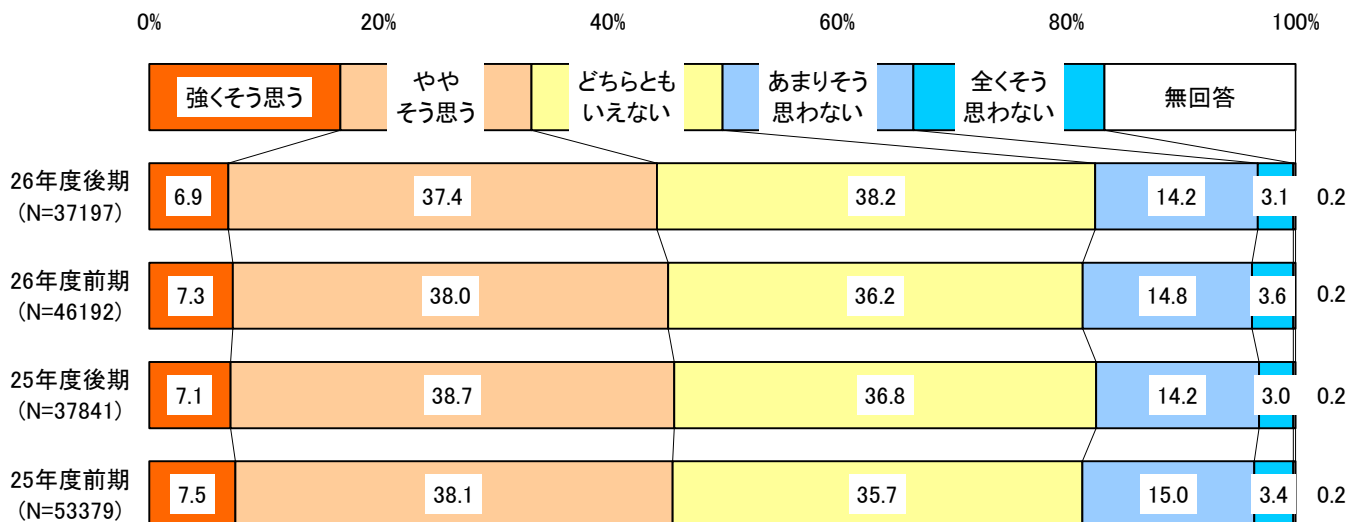
### 3 理解度の変化（1）

【学生】

学生の理解度を時系列でみると、全体では「強くそう思う」+「ややそう思う」の割合は4割強で、25年度からほぼ横ばい。学部・学科別では、薬学部で低下傾向。また、理工学部建築学科では26年度前期・後期ともに上昇した。

Q10. 自分はこの授業が理解できている。

<理解度> 【全学部】



<学部・学科別理解度の時系列比較>

学部別	回答者数	26年度後期	26年度前期	25年度後期	25年度前期
全体	37197	44.3	45.2	45.8	45.6
法学部	3388	45.6	44.8	47.9	45.9
経営学部	3043	48.9	46.3	52.3	47.9
経済学部	2230	44.4	38.0	45.7	40.1
理工学部	12995	41.7	44.4	41.9	42.7
農学部	3283	39.4	43.2	40.4	45.8
薬学部	3872	<u>26.3</u>	33.2	33.1	36.1
都市情報学部	2865	54.2	50.6	54.5	51.5
人間学部	1809	61.7	58.6	66.1	62.6
教職課程・学芸員課程	567	59.8	<u>56.5</u>	59.9	65.5
全学共通教育部門	3145	54.4	51.6	55.7	54.5

学科別	回答者数	26年度後期	26年度前期	25年度後期	25年度前期
全体	37197	44.3	45.2	45.8	45.6
法学科	3241	44.8	44.1	47.4	45.5
応用実務法学科	147	61.9	57.3	66.7	53.7
経営学科	2226	48.5	46.9	52.6	48.8
国際経営学科	817	49.8	43.8	51.6	44.4
経済学科	1366	45.5	34.8	43.7	38.8
産業社会学科	864	<u>42.7</u>	45.1	53.1	44.7
数学科	790	<u>36.5</u>	<u>41.0</u>	42.9	46.6
情報工学科	1667	44.3	46.6	41.0	47.7
電気電子工学科	1591	38.7	45.2	41.5	45.2
材料機能工学科	1341	32.9	32.5	35.6	30.9
応用化学科 (1・2年次のみ)	512	27.9	<u>36.3</u>	26.0	53.7
機械工学科/ 機械システム工学科	1344	45.2	42.9	43.1	39.2
交通機械工学科	1118	44.5	46.3	41.2	42.6
メカトロニクス工学科 (1・2年次のみ)	826	38.9	38.5	40.0	37.5
社会基盤デザイン工学科 /建設システム工学科	1494	41.6	51.5	46.0	46.6
環境創造学科	607	40.5	43.4	41.6	38.1
建築学科	1705	<u>52.9</u>	<u>51.0</u>	47.4	46.0
生物資源学科	1156	36.4	41.3	34.7	43.1
応用生物化学科	1282	42.2	43.7	41.3	46.4
生物環境科学科	845	<u>39.3</u>	45.5	44.5	49.2
薬学科	3872	<u>26.3</u>	33.2	33.1	36.1
都市情報学科	2865	54.2	50.6	54.5	51.5
人間学科	1809	61.7	58.6	66.1	62.6

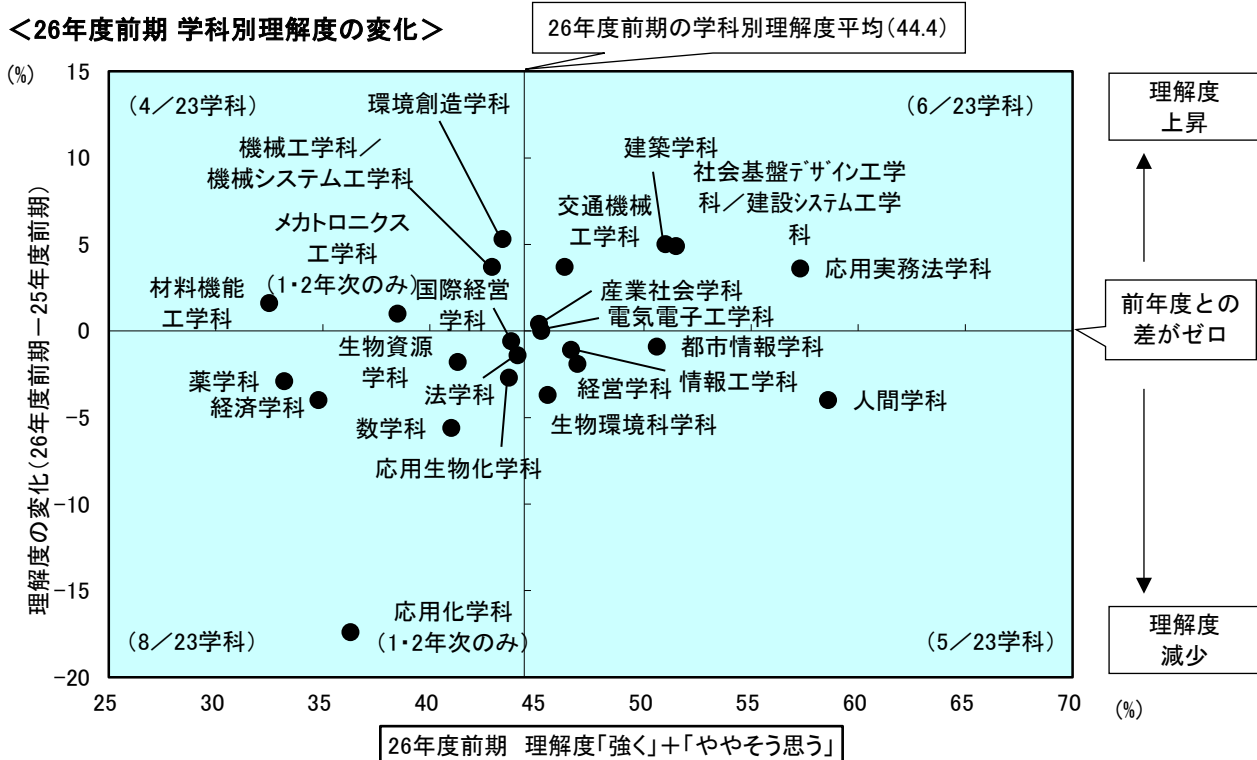
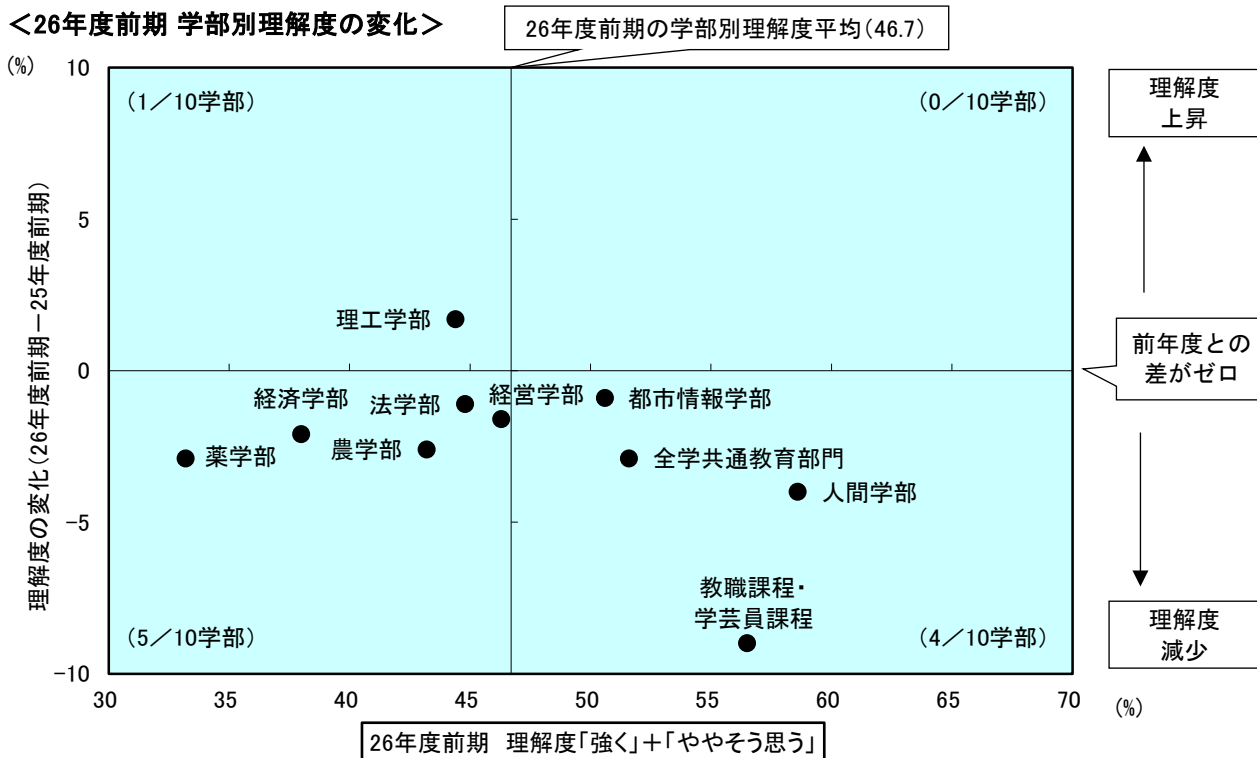
※「強く」+「ややそう思う」のスコア(%)

※前年度より5ポイント以上上昇したものは網掛け、5ポイント以上低下したものは斜体+下線  
(25年度前期・26年度前期、25年度後期・26年度後期で比較)

### 3 理解度の変化（2） 26年度前期

[学生]

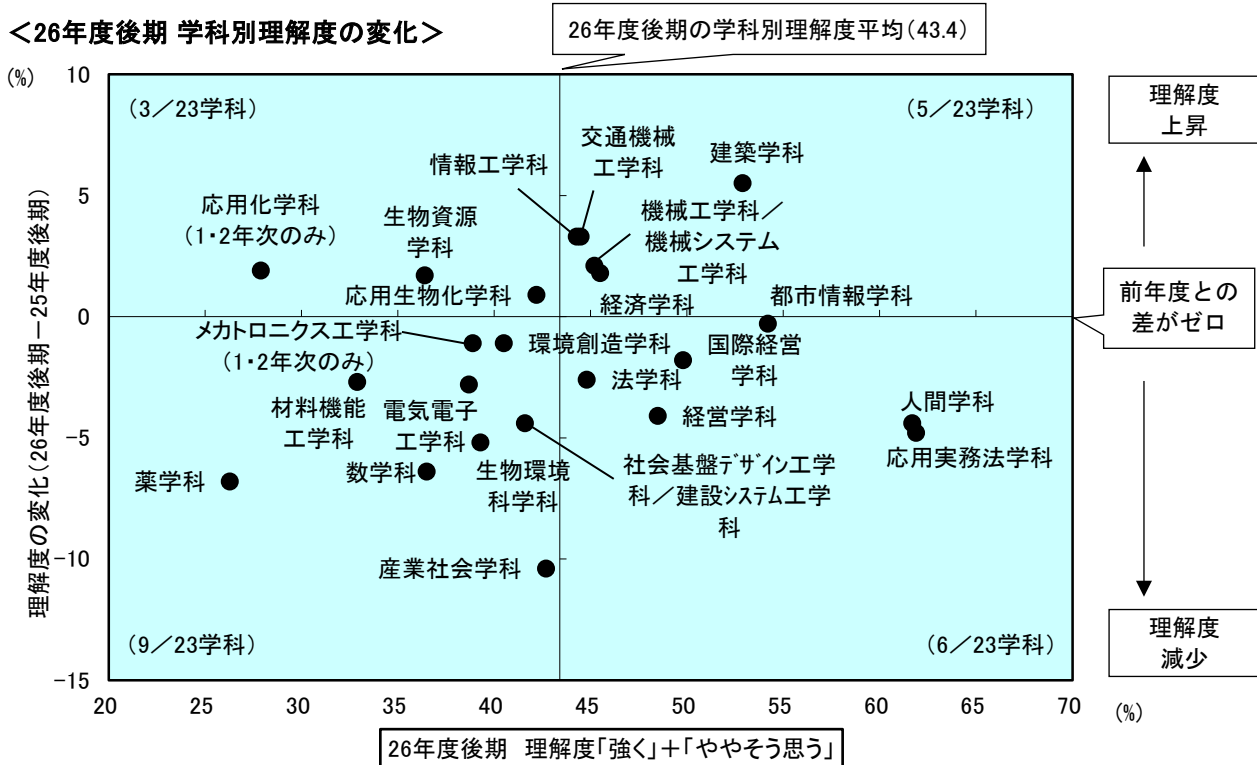
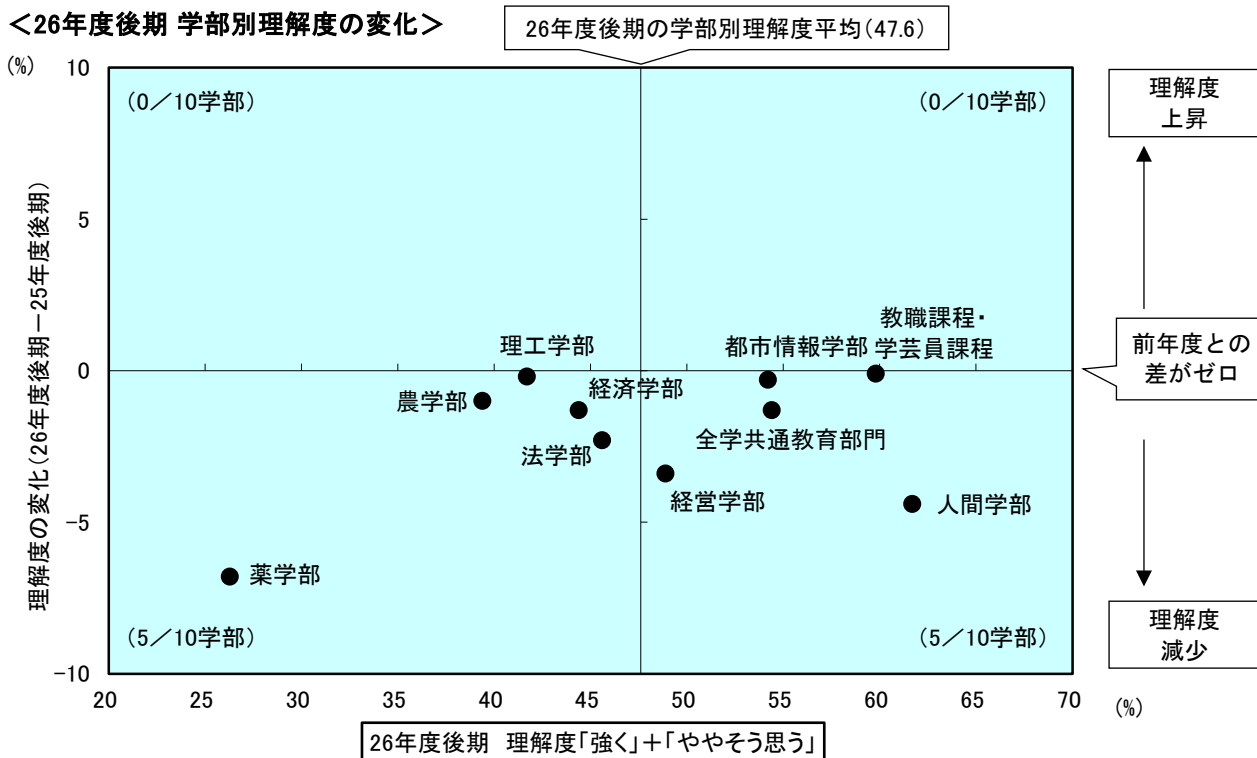
学部別、学科別に理解度の変化の度合いを25年度前期と比較したところ、26年度前期の全学平均よりも低かった学部のうち、理工学部の理解度が上昇した。学科別では、環境創造学科、機械工学科／機械システム工学科など4学科の理解度が上昇した。



### 3 理解度の変化（3） 26年度後期

[学生]

学部別、学科別に理解度の変化の度合いを25年度後期と比較したところ、26年度後期の全学平均よりも低かった学部のうち、理解度が上昇した学部はなかった。学科別では、応用化学科、生物資源学科、応用生物化学科の理解度が上昇した。



# 4 調査結果のまとめ 26年度前期

[学生]

26年度前期の授業に対する学生の評価は、「意欲熱意」「ポイント」で高い。一方、「自学自習時間」が「週3時間以上」+「週1～3時間未満」の割合は1割程度にとどまり、「基礎知識」も2割台と、学生自身の自己評価が低くなっている。

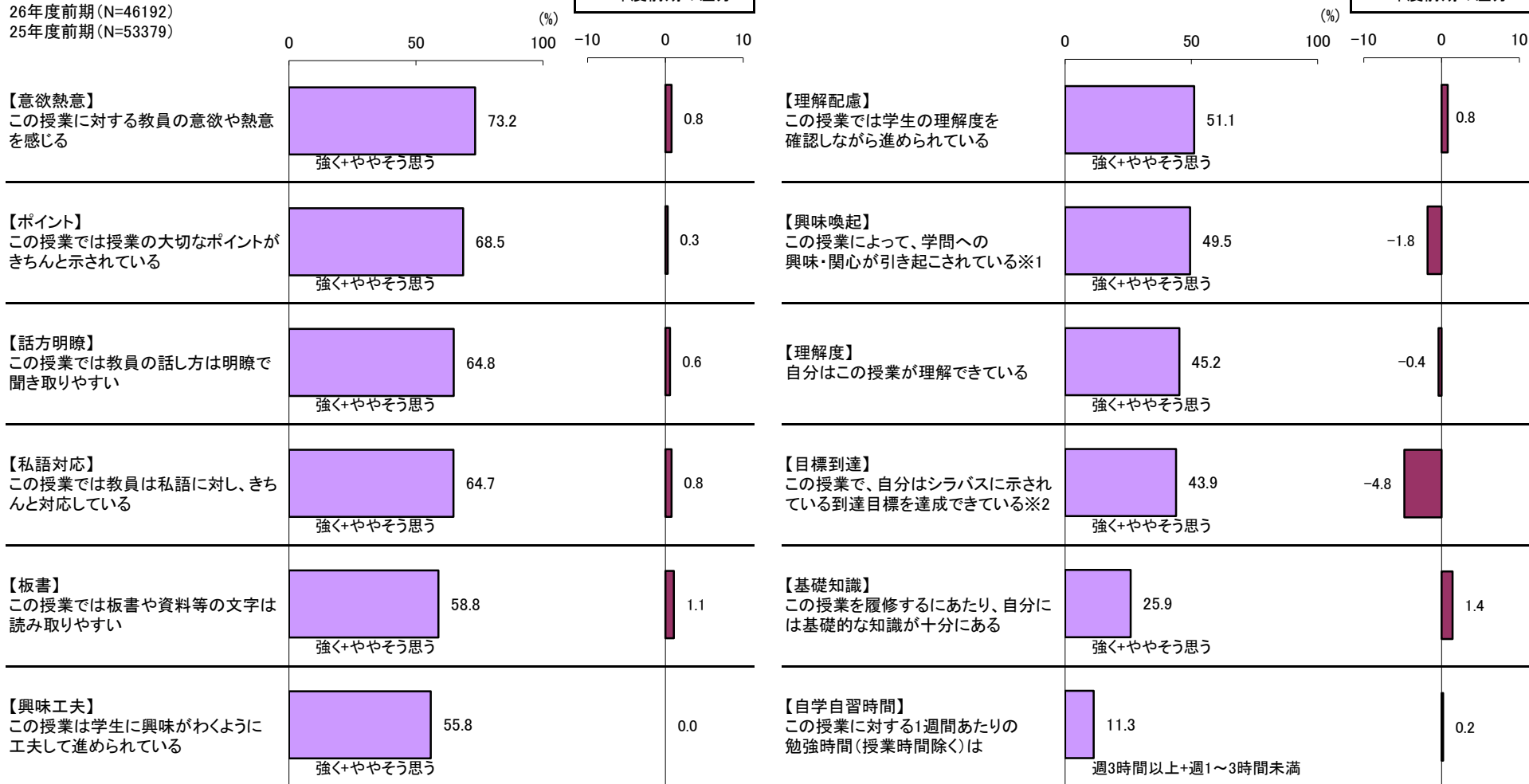
## 【26年度前期】

26年度前期(N=46192)  
25年度前期(N=53379)

26年度前期と  
25年度前期の差分

※横棒グラフは各設問上位2選択肢の合計割合(%)

26年度前期と  
25年度前期の差分



(※1)平成25年度前期は「この授業によって、学問への興味・関心が引き起こされた」で測定 (今回は「引き起こされた」→「引き起こされている」へ変更)

(※2)平成25年度前期は「この授業ではシラバスに示されている到達目標を達成できた」で測定 (今回は「自分は」を追加し、「達成できた」→「達成できている」へ変更)



# 4 調査結果のまとめ 26年度後期

[学生]

26年度後期の授業に対する学生の評価は、「意欲熱意」「ポイント」で高い。一方、「自学自習時間」が「週3時間以上」+「週1～3時間未満」の割合は1割程度にとどまり、「基礎知識」も2割台と、学生自身の自己評価が低くなっている。

## 【26年度後期】

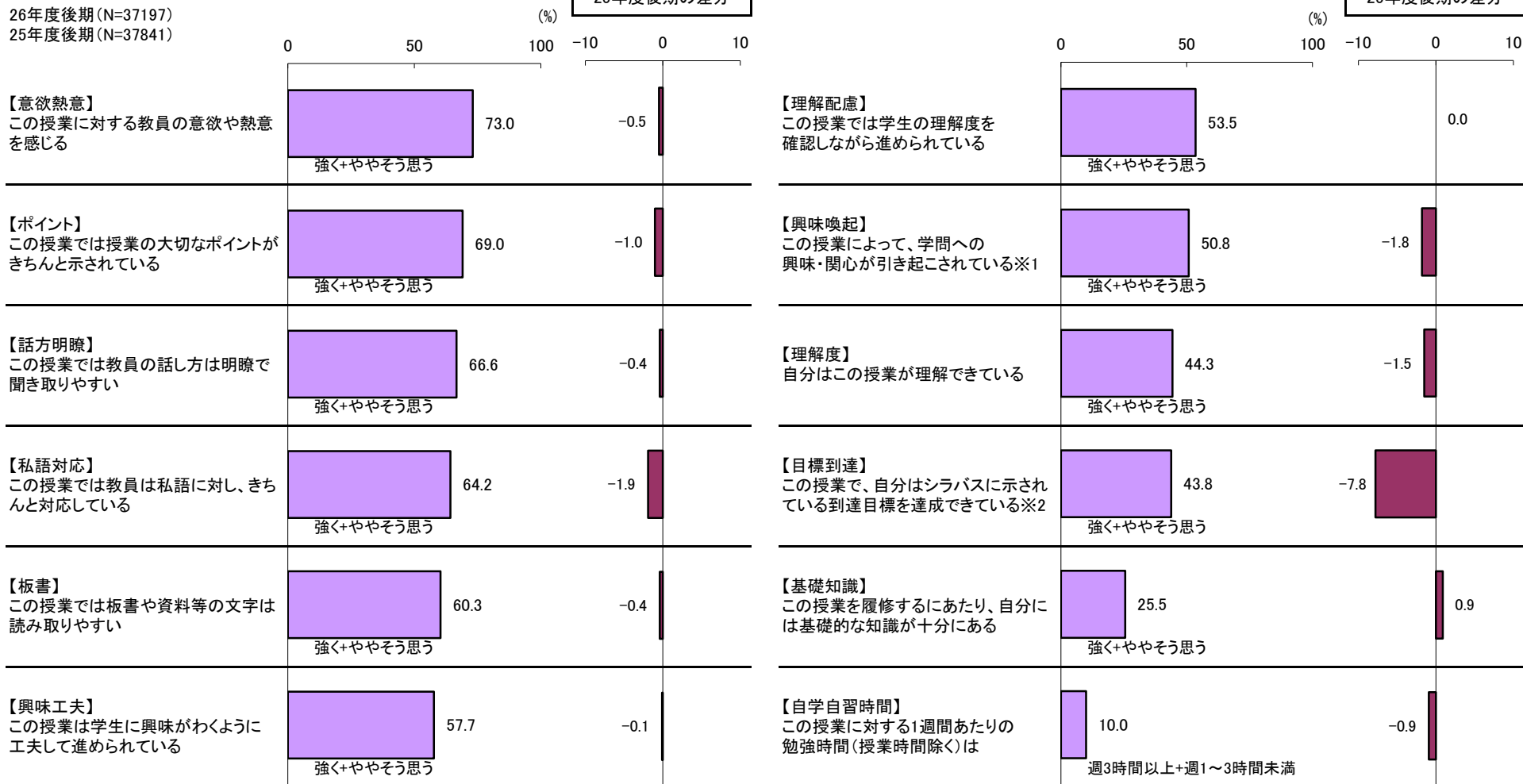
26年度後期(N=37197)  
25年度後期(N=37841)

26年度後期と  
25年度後期の差分

※横棒グラフは各設問上位2選択肢の合計割合(%)

26年度後期と  
25年度後期の差分

- 15 -



(※1)平成25年度後期は「この授業によって、学問への興味・関心が引き起こされた」で測定 (今回は「引き起こされた」→「引き起こされている」へ変更)

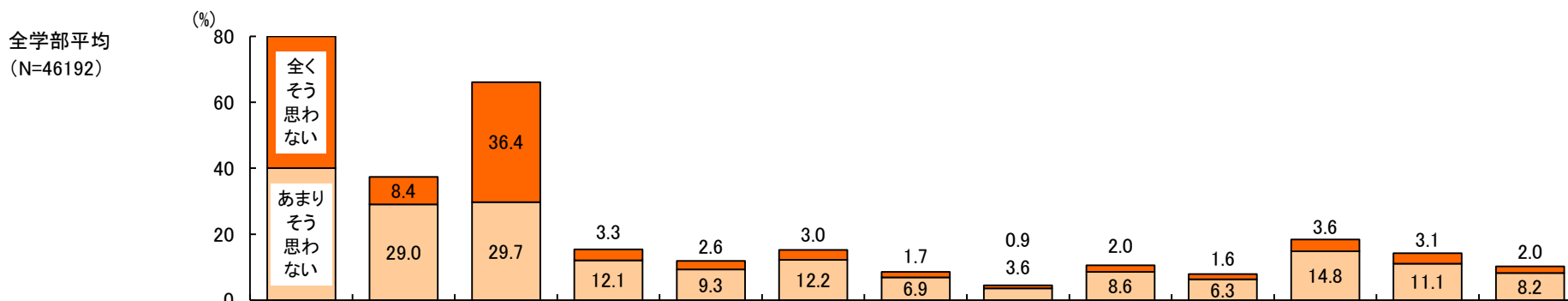
(※2)平成25年度後期は「この授業ではシラバスに示されている到達目標を達成できた」で測定 (今回は「自分は」を追加し、「達成できた」→「達成できている」へ変更)

# 5 学部別改善ポイント 26年度前期

[学生]

26年度前期の学生調査の結果のうち「あまりそう思わない」「全くそう思わない」のスコアを表すことで改善すべきポイントを明確にした。全学部平均では、「自学自習時間」「基礎知識」が上位にあげられる。特に自学自習をしていない学生が6割台と突出し、人間学部では8割を超える。

【26年度前期】



「あまりそう思わない」+  
「全くそう思わない」のスコア

開講学部別	学部	人数	スコア (%)											
			基礎知識	自学自習時間※1	板書	話方明瞭	理解配慮	私語対応	意欲熱意	興味工夫	ポイント	理解度	興味喚起	目標到達
	法学部	(n=4857)	37.4	66.4	18.6	11.8	14.6	7.4	4.6	10.0	7.9	17.8	13.6	9.8
	経営学部	(n=3851)	37.0	76.1	17.6	12.2	17.5	6.2	4.3	12.3	8.8	18.6	15.3	9.2
	経済学部	(n=2859)	42.6	77.4	18.0	16.1	19.3	8.8	4.1	12.5	10.9	23.4	17.2	11.0
	理工学部	(n=15129)	35.5	55.0	15.8	13.5	15.9	9.9	5.9	13.0	7.8	20.2	16.6	12.0
	農学部	(n=4392)	37.9	70.8	16.8	12.8	14.5	10.0	3.4	9.2	8.0	19.6	13.5	9.3
	薬学部	(n=4011)	40.0	61.5	15.5	11.3	15.2	8.3	5.7	9.5	9.1	20.0	12.8	12.1
	都市情報学部	(n=3208)	32.5	66.0	9.6	7.3	11.7	7.4	3.3	8.2	5.2	15.0	10.4	7.8
	人間学部	(n=2284)	35.2	81.0	8.8	6.3	13.0	5.4	2.1	7.3	7.2	11.1	8.5	6.0
	教職課程・学芸員課程	(n=1077)	39.6	70.4	9.8	9.3	10.4	6.5	2.1	7.6	5.9	10.4	9.9	5.0
	全学共通教育部門	(n=4524)	41.8	78.3	14.4	9.5	14.0	9.4	2.4	7.7	7.5	14.4	12.8	8.9

網かけは、より改善が必要な項目(全体より5ポイント以上)

※1 「自学自習時間」のスコアは「週30分未満」+「していない」

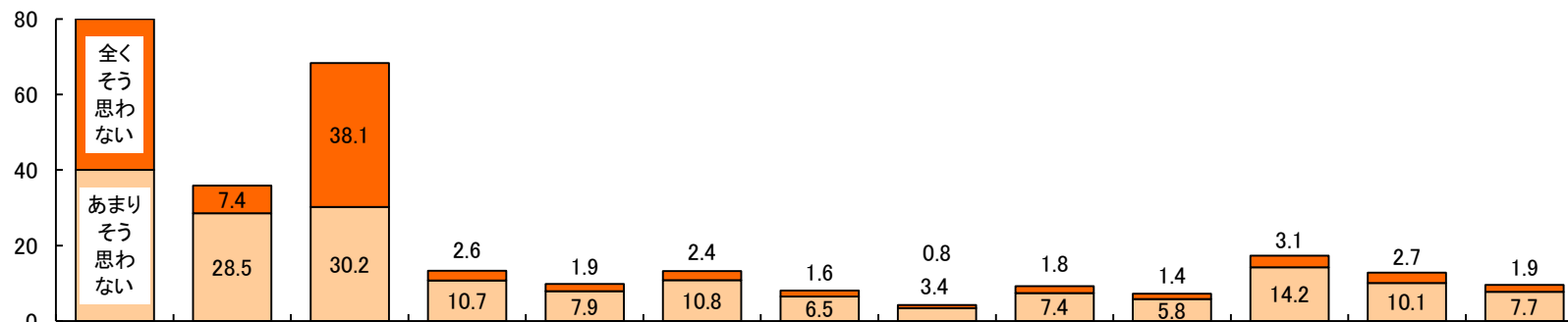
# 5 学部別改善ポイント 26年度後期

[学生]

26年度後期の学生調査の結果のうち「あまりそう思わない」「全くそう思わない」のスコアを表すことで改善すべきポイントを明確にした。全学部平均では、「自学自習時間」「基礎知識」が上位にあげられる。特に自学自習をしていない学生が7割弱と突出し、人間学部では8割台にのぼる。

【26年度後期】

全学部平均  
(N=37197)



「あまりそう思わない」+  
「全くそう思わない」のスコア

開講学部別	学部	n	スコア											
			基礎知識	自学自習時間※1	板書	話方明瞭	理解配慮	私語対応	意欲熱意	興味工夫	ポイント	理解度	興味喚起	目標到達
	法学部	(n=3388)	37.5	68.1	15.4	11.3	13.3	7.1	3.6	9.6	7.4	18.3	13.1	10.3 (%)
	経営学部	(n=3043)	32.6	75.4	11.6	10.8	13.0	6.6	3.4	9.2	7.1	12.8	11.8	6.8
	経済学部	(n=2230)	39.3	75.7	14.8	9.9	14.6	7.8	3.0	9.9	7.5	20.9	13.9	9.7
	理工学部	(n=12995)	34.1	61.3	14.3	11.3	14.7	9.4	5.7	11.2	7.3	19.6	15.6	11.5
	農学部	(n=3283)	35.2	72.1	13.5	9.5	12.5	8.9	2.9	6.7	7.8	17.4	11.1	8.2
	薬学部	(n=3872)	40.1	65.4	14.9	10.9	12.4	7.1	6.0	9.2	8.3	19.9	13.0	12.7
	都市情報学部	(n=2865)	36.1	66.6	10.1	6.2	10.3	7.0	2.9	7.2	4.9	11.7	8.9	6.1
	人間学部	(n=1809)	36.9	85.5	7.4	4.9	8.6	4.8	1.7	6.7	7.7	11.7	8.0	5.3
	教職課程・学芸員課程	(n=567)	34.6	74.8	10.6	7.8	9.7	7.2	2.3	4.8	7.2	7.6	6.5	4.6
	全学共通教育部門	(n=3145)	37.6	75.6	11.9	6.5	13.1	8.1	2.4	6.7	6.3	15.0	10.7	7.8

網かけは、より改善が必要な項目(全体より5ポイント以上)

※1 「自学自習時間」のスコアは「週30分未満」+「していない」

## 6 理解度を上げるための改善優先項目

[学生]

学生への設問の中で、理解度を上げるために教員自身が改善できると考えられる9項目について、理解度との関連度合いと不満度から改善優先度を算出した。結果、「この授業によって、学問への興味・関心が引き起こされている」「この授業で、自分はシラバスに示されている到達目標を達成できている」に関して改善優先度が高いことがわかった。

### 理解度との関連度合い

「理解度との関連度合い」とは、**学生の理解度への影響の強さ**を数値で表したものです。学生アンケート設問項目「自分はこの授業が理解できている」と各質問項目の連関係数です。もう少し正確に表現しますと、各評価項目に対する評価と「理解度」の評価との関係の強さを数値で表したものとすることになります。値は大きいほど関係が強く、最大で1.0、最小で0.0の値をとりますが、1.0に近い値をとることはほとんどなく、経験的には0.4程度の値でかなりの関係があると言えます。なお、サンプル数が少ない授業もあるため、授業ごとに計算したものでなく、全サンプルで算出しています。

### 不満度

「不満度」とは、各設問項目において、**学生の不満感の大きさ**を数値で表したもので、値が大きいほど不満が強く、最大で「1」、最小で「0」の値をとります。回答者全員が「強く思う」と回答した場合は「0」、「全くそう思わない」と回答した場合は「1」となります。

### 改善優先度

改善優先度とは、各設問の評価「理解度との関連度合い」と「不満度」を利用して、それぞれの項目に対する改善が求められる度合いを数値化したものです。以下の式で表されます。改善優先度は、値が高いほど改善が求められています。

$$\text{改善優先度} = \frac{\text{「理解度との関連度合い」} \times \text{「不満度」}}{\text{「理解度との関連度合い」の最大値}} \times 100$$

「改善優先度」は、全サンプルで算出した「理解度との関連度合い」の最大値で除してあり、最大値が100、最小値が0になるように規格化しています。

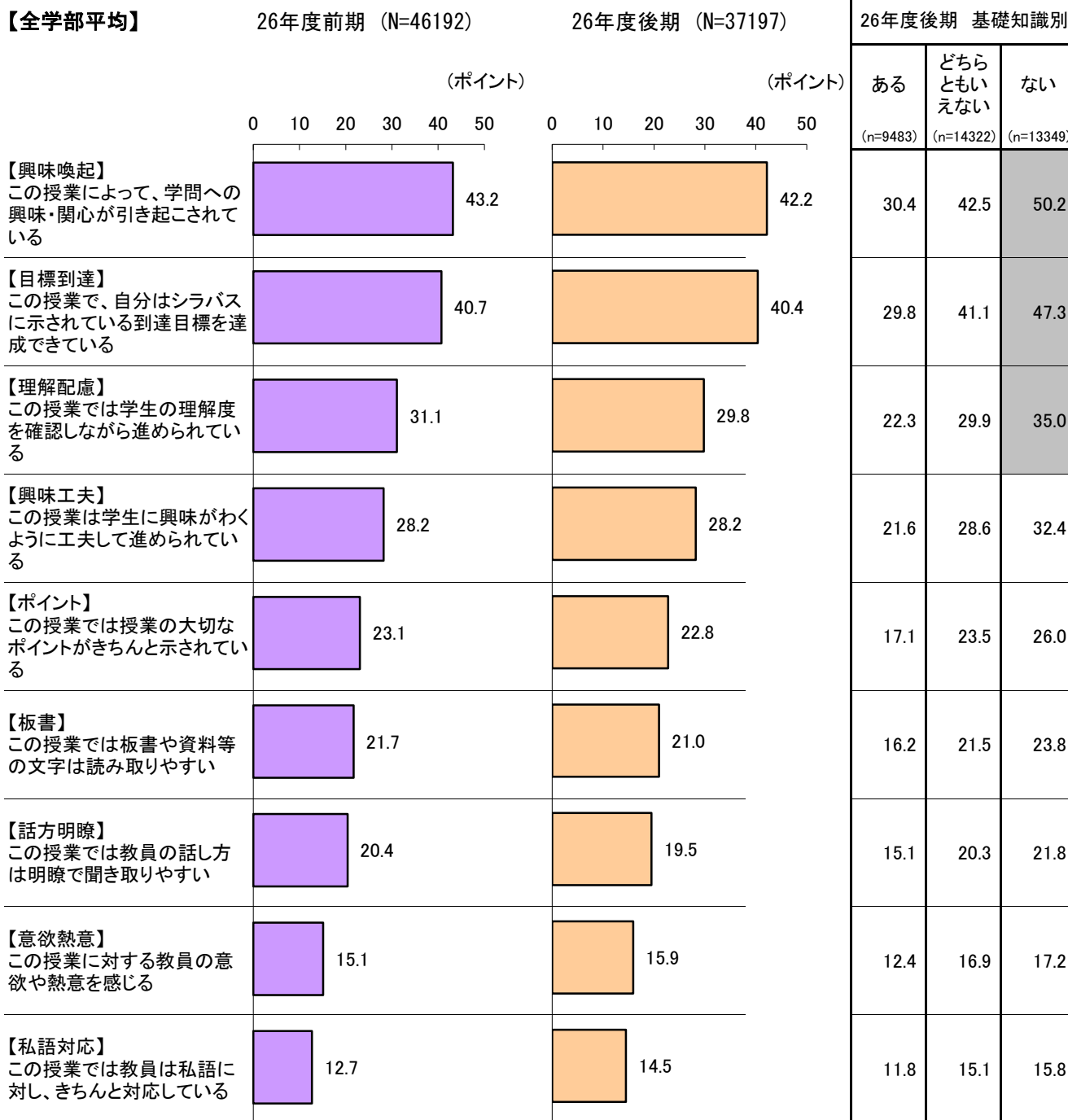
	26年度前期			26年度後期		
	理解度との関連度合い	不満度	改善優先度	理解度との関連度合い	不満度	改善優先度
3.この授業では板書や資料等の文字は読み取りやすい	0.25	0.39	21.7	0.26	0.37	21.0
4.この授業では教員の話し方は明瞭で聞き取りやすい	0.26	0.35	20.4	0.27	0.34	19.5
5.この授業では学生の理解度を確認しながら進められている	0.33	0.42	31.1	0.34	0.40	29.8
6.この授業では教員は私語に対し、きちんと対応している	0.17	0.34	12.7	0.20	0.33	14.5
7.この授業に対する教員の意欲や熱意を感じる	0.23	0.30	15.1	0.25	0.29	15.9
8.この授業は学生に興味をわくように工夫して進められている	0.33	0.39	28.2	0.34	0.38	28.2
9.この授業では授業の大切なポイントがきちんと示されている	0.31	0.33	23.1	0.32	0.32	22.8
11. この授業によって、学問への興味・関心が引き起こされている	0.45	0.43	43.2	0.46	0.42	42.2
12. この授業で、自分はシラバスに示されている到達目標を達成できている	0.42	0.44	40.7	0.43	0.43	40.4
理解度との関連度合いの最大値	0.45			0.46		

## 6 理解度を上げるための改善優先項目（全学部）

[学生]

全学部では、改善優先度は「興味喚起」「目標到達」「理解配慮」で高く、学生の自己評価の基礎知識が「ない」学生ほどその意向が強い。一方、「私語対応」「意欲熱意」への改善優先度は低い。26年度後期は26年度前期と比較すると、「私語対応」で改善優先度がやや高い。

### <改善優先度>



(ポイント)

\* 26年度後期全体より5ポイント以上高いものに網掛け

## 6 理解度を上げるための改善優先項目（法学部）

[学生]

法学部では、改善優先度は「興味喚起」「目標到達」「理解配慮」で高く、学生の自己評価の基礎知識が「ない」学生ほどその意向が強い。一方、「私語対応」「意欲熱意」への改善優先度は低い。26年度後期は26年度前期と比較すると、「板書」で改善優先度がやや低い。

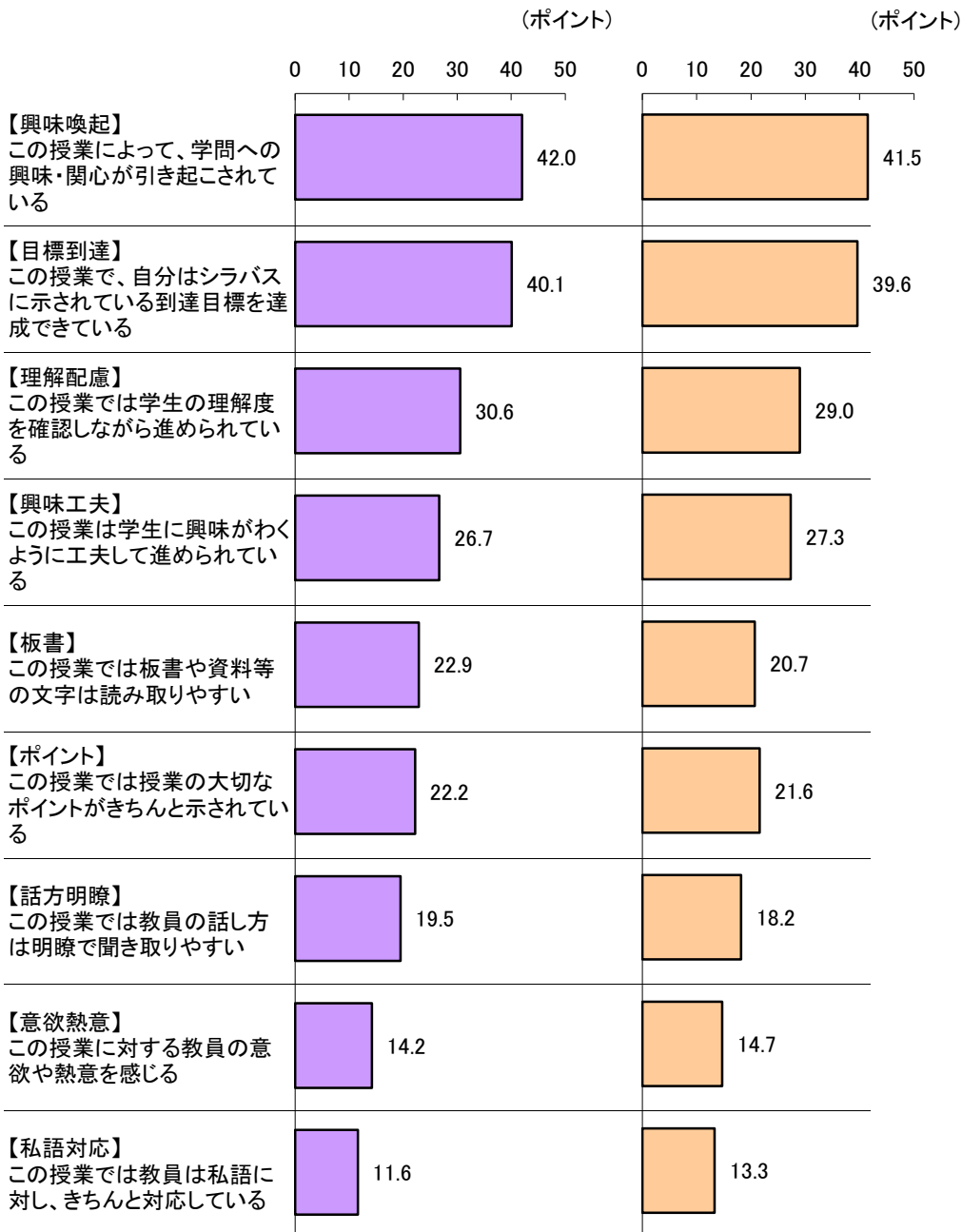
### <改善優先度>

#### 【法学部平均】

26年度前期 (N=4857)

26年度後期 (N=3388)

26年度後期 基礎知識別		
ある (n=874)	どちらともいえない (n=1239)	ない (n=1270)
30.4	41.5	49.1
28.8	40.6	46.0
22.8	28.8	33.3
21.7	27.5	31.0
16.0	21.4	23.3
16.6	22.3	24.4
14.6	19.1	19.8
12.2	15.6	15.6
11.8	14.2	13.4



(ポイント)

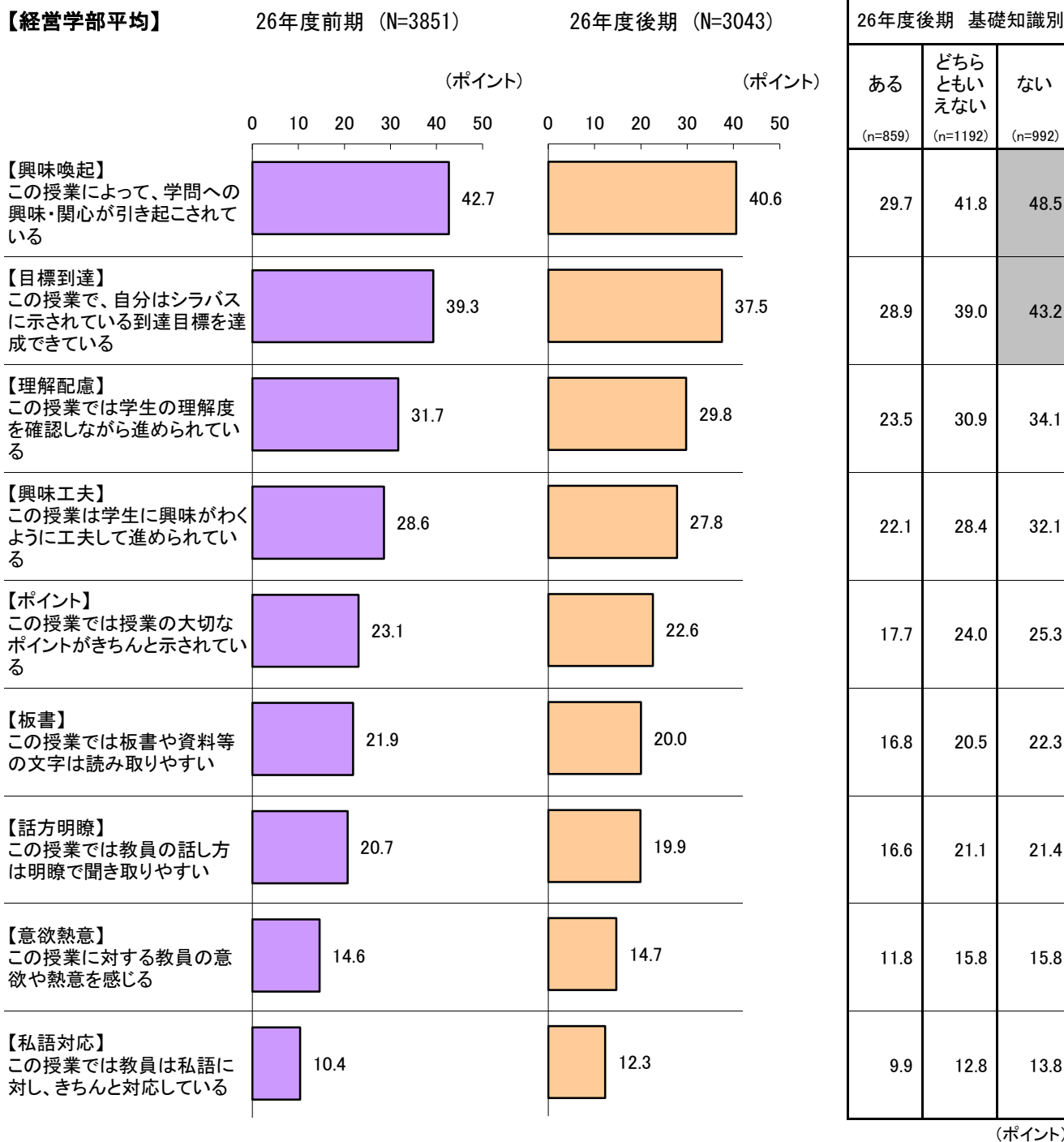
\* 26年度後期全体より5ポイント以上高いものに網掛け

## 6 理解度を上げるための改善優先項目（経営学部）

[学生]

経営学部では、改善優先度は「興味喚起」「目標到達」「理解配慮」で高く、学生の自己評価の基礎知識が「ない」学生ほどその意向が強い。一方、「私語対応」「意欲熱意」への改善優先度は低い。26年度後期は26年度前期と比較すると、上位項目を中心に改善優先度が低めだが、「私語対応」はやや高い。

### <改善優先度>



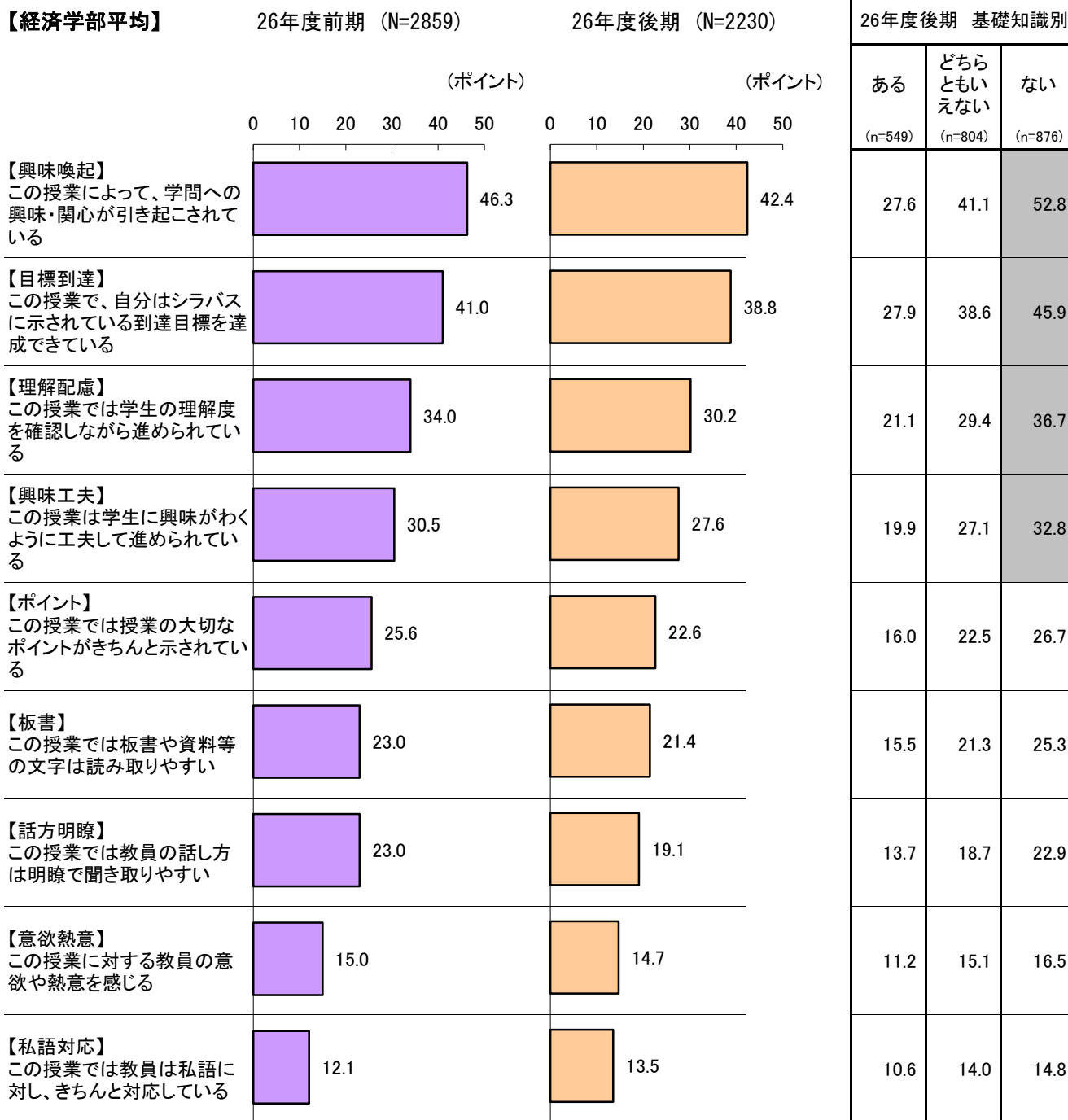
\* 26年度後期全体より5ポイント以上高いものに網掛け

## 6 理解度を上げるための改善優先項目（経済学部）

[学生]

経済学部では、改善優先度は「興味喚起」「目標到達」「理解配慮」が高く、学生の自己評価の基礎知識が「ない」学生ほどその意向が強い。一方、「私語対応」「意欲熱意」への改善優先度は低い。26年度後期は26年度前期と比較すると、「興味喚起」「話方明瞭」「理解配慮」で改善優先度が低い。

### <改善優先度>



(ポイント)

\* 26年度後期全体より5ポイント以上高いものに網掛け

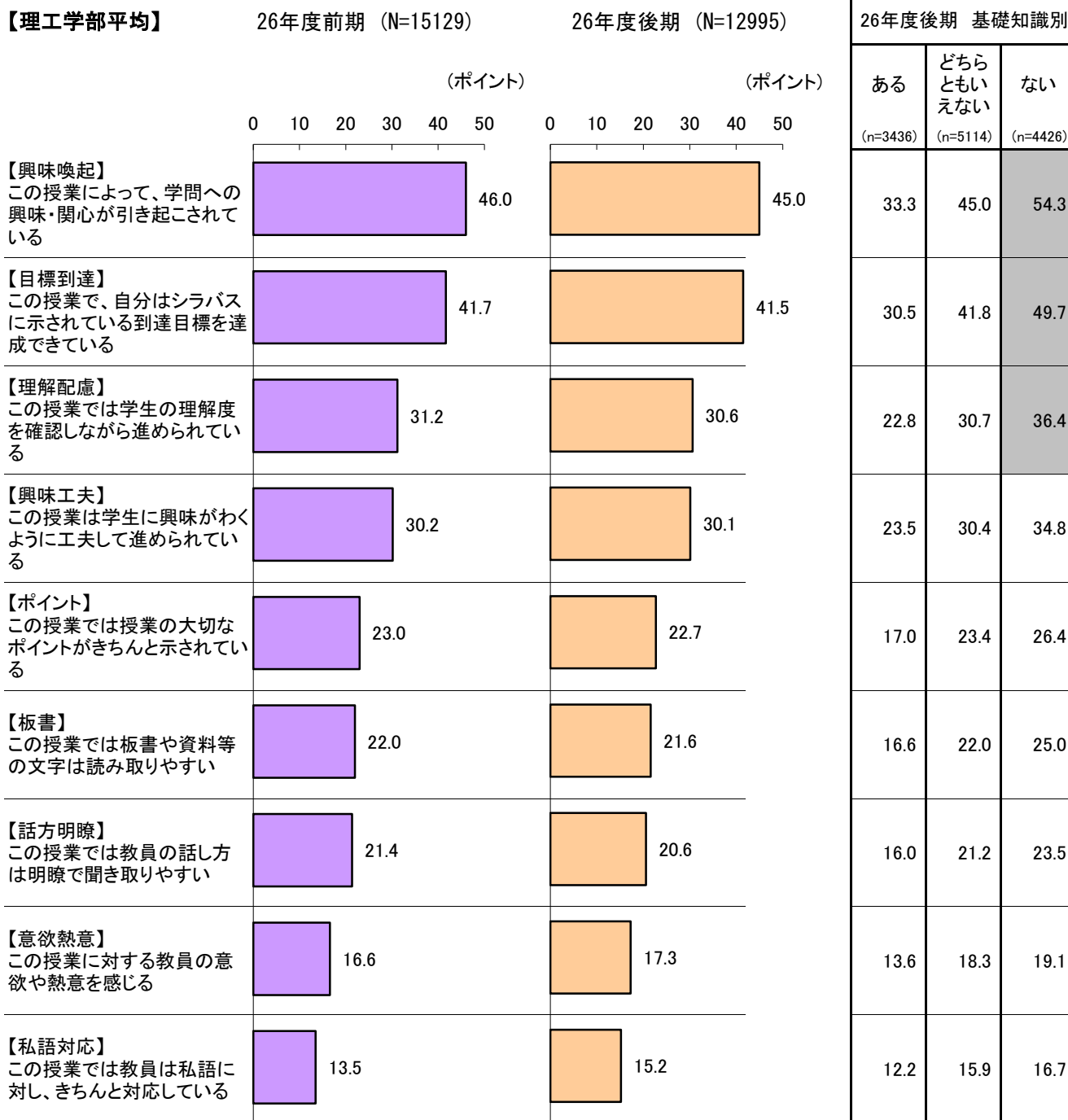


## 6 理解度を上げるための改善優先項目（理工学部）

[学生]

理工学部では、改善優先度は「興味喚起」「目標到達」「理解配慮」が高く、学生の自己評価の基礎知識が「ない」学生ほどその意向が強い。一方、「私語対応」「意欲熱意」への改善優先度は低い。26年度後期は26年度前期と比較すると、「私語対応」で改善優先度がやや高い。

### <改善優先度>



(ポイント)

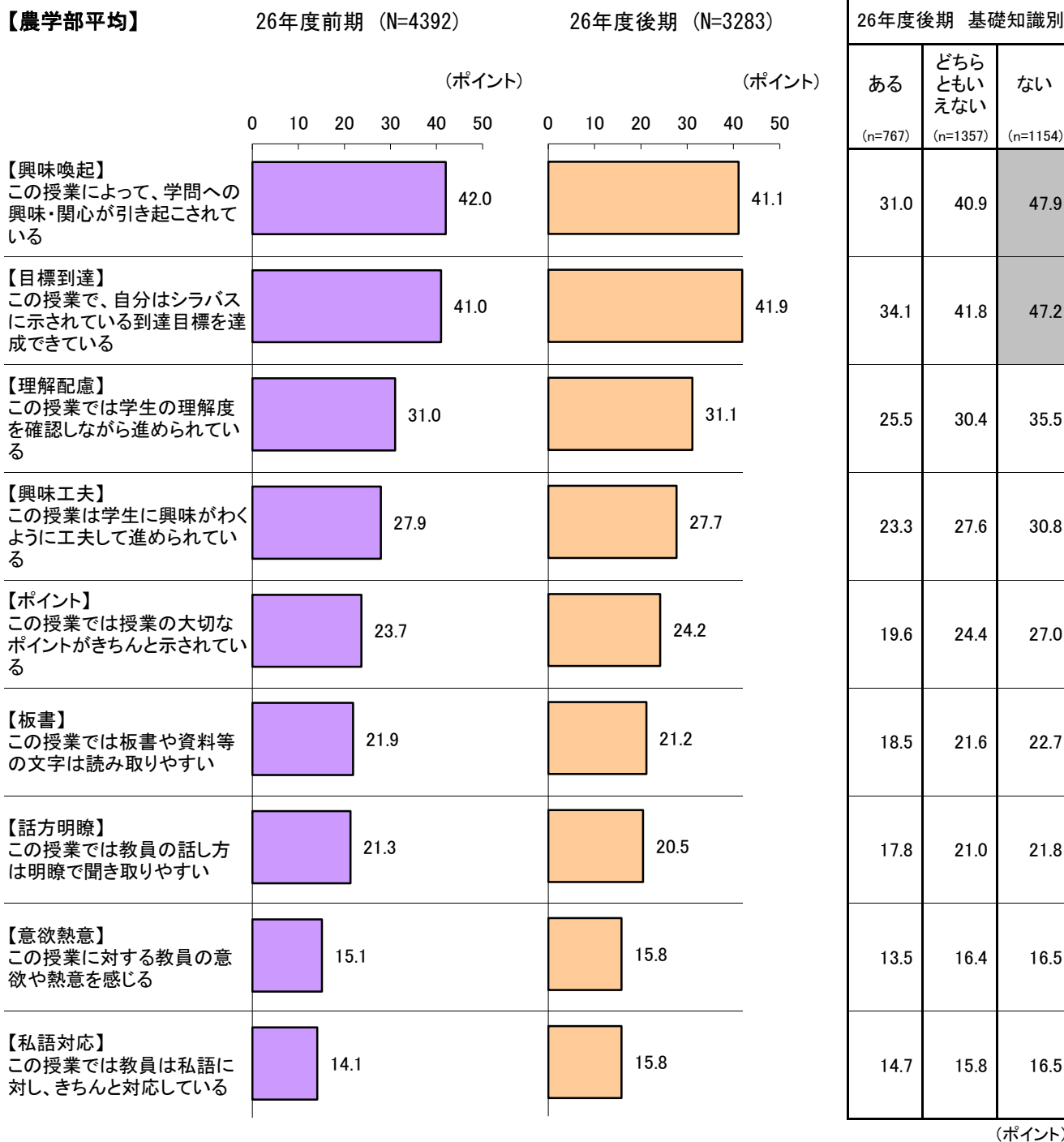
\* 26年度後期全体より5ポイント以上高いものに網掛け

## 6 理解度を上げるための改善優先項目（農学部）

[学生]

農学部では、改善優先度は「興味喚起」「目標到達」「理解配慮」で高く、学生の自己評価の基礎知識が「ない」学生ほどその意向が強い。一方、「私語対応」「意欲熱意」への改善優先度は低い。26年度後期は26年度前期と比較すると、「私語対応」で改善優先度がやや高い。

### <改善優先度>



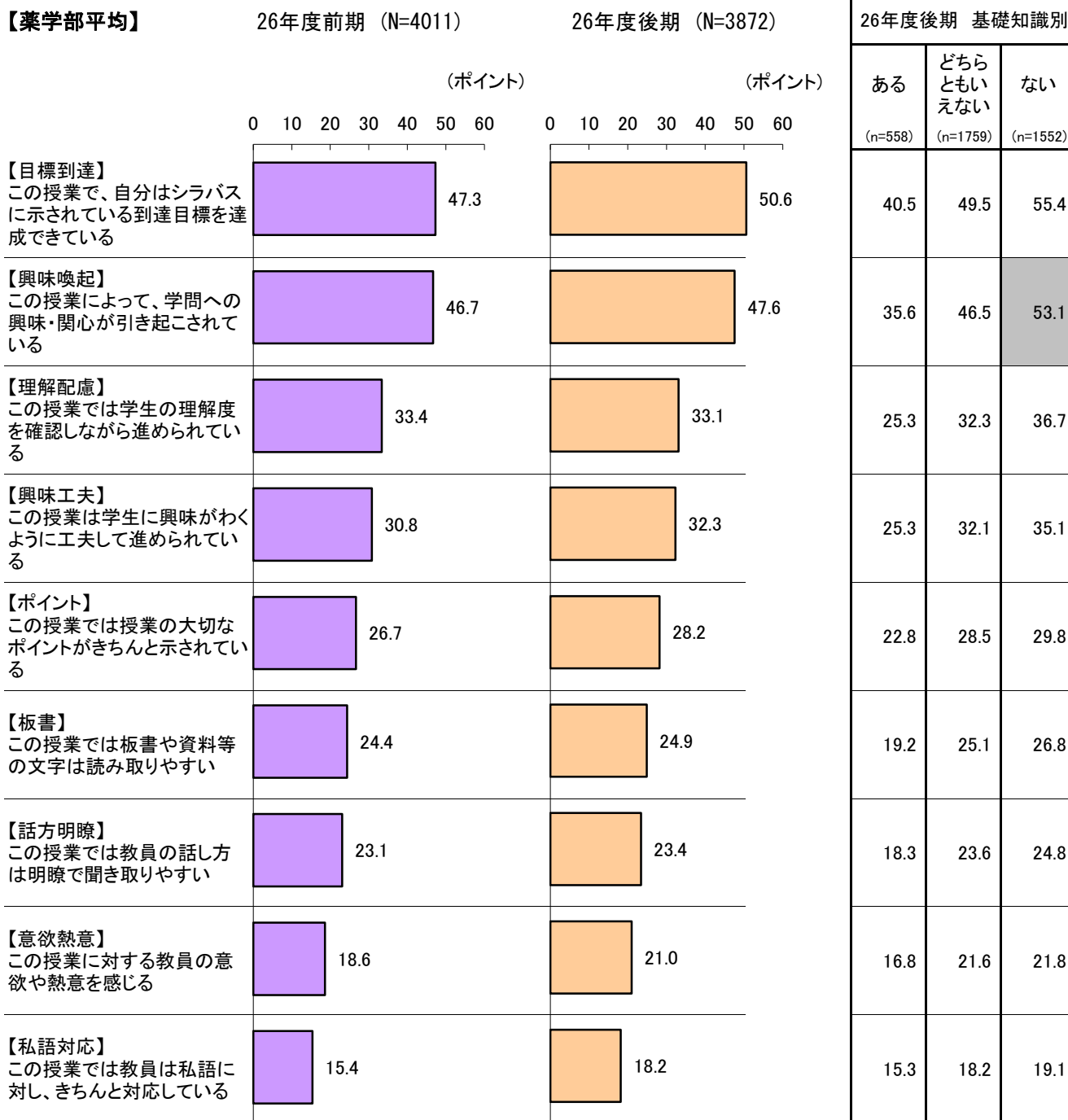
\* 26年度後期全体より5ポイント以上高いものに網掛け

## 6 理解度を上げるための改善優先項目（薬学部）

[学生]

薬学部では、改善優先度は「目標到達」「興味喚起」「理解配慮」で高く、学生の自己評価の基礎知識が「ない」学生ほどその意向が強い。一方、「私語対応」「意欲熱意」への改善優先度は低い。26年度後期は26年度前期と比較すると、「目標到達」「私語対応」「意欲熱意」で改善優先度が高い。

### <改善優先度>



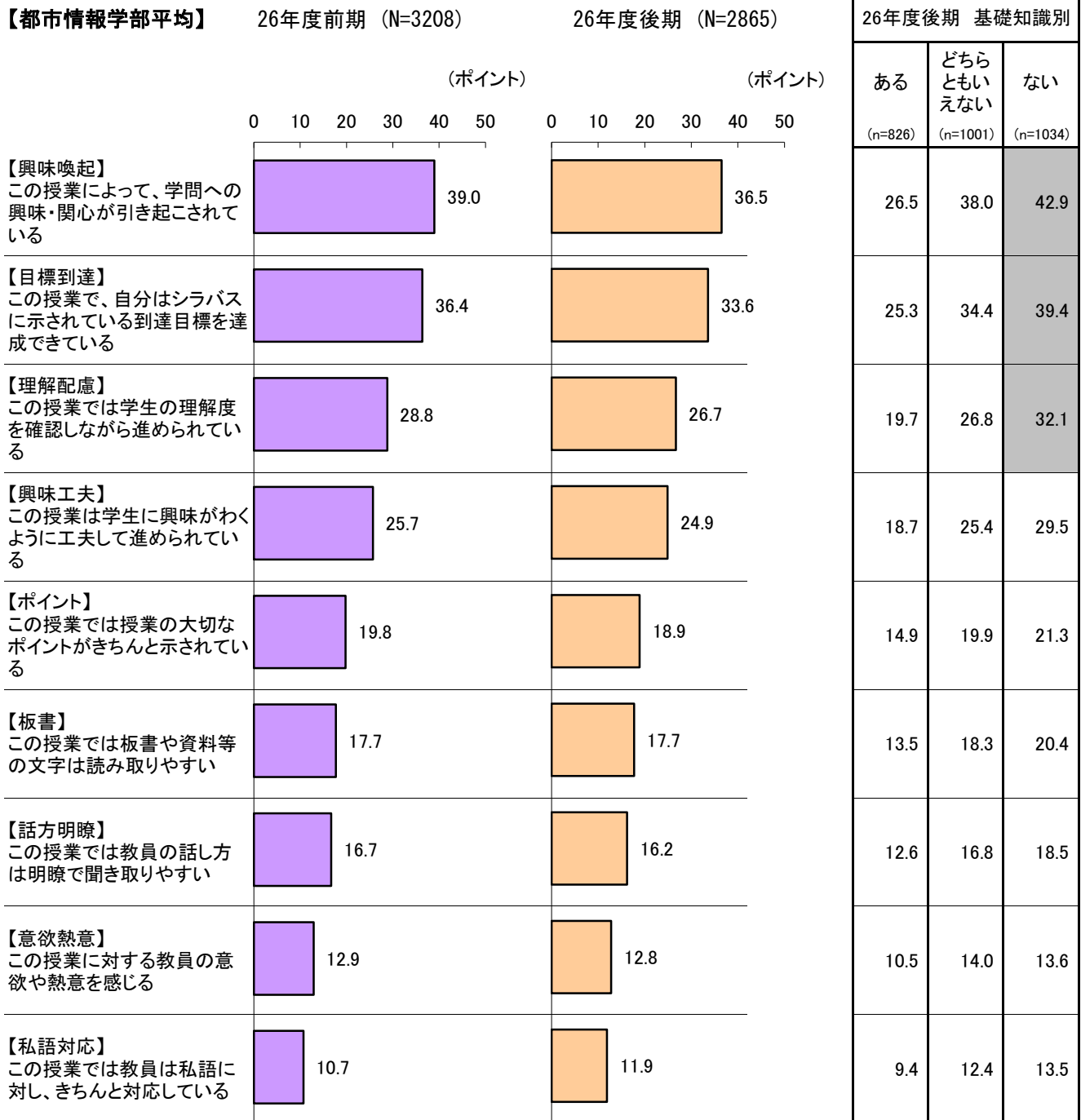
(ポイント)

\* 26年度後期全体より5ポイント以上高いものに網掛け

## 6 理解度を上げるための改善優先項目（都市情報学部）〔学生〕

都市情報学部では、改善優先度は「興味喚起」「目標到達」「理解配慮」で高く、学生の自己評価の基礎知識が「ない」学生ほどその意向が強い。一方、「私語対応」「意欲熱意」への改善優先度は低い。26年度後期は26年度前期と比較すると、「目標到達」「興味喚起」で改善優先度が低い。

### <改善優先度>



(ポイント)

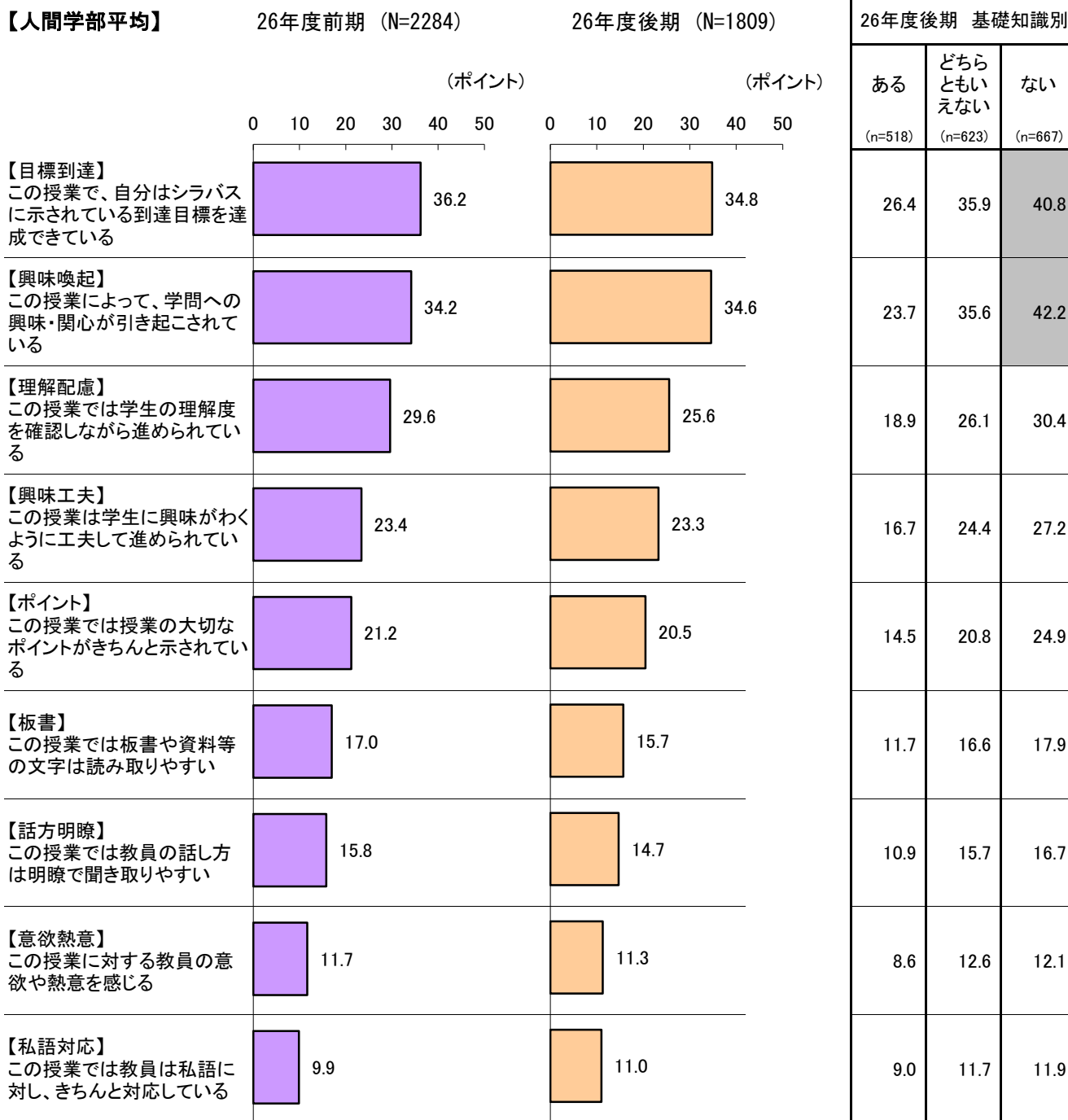
\* 26年度後期全体より5ポイント以上高いものに網掛け

## 6 理解度を上げるための改善優先項目（人間学部）

[学生]

人間学部では、改善優先度は「目標到達」「興味喚起」「理解配慮」で高く、学生の自己評価の基礎知識が「ない」学生ほどその意向が強い。一方、「私語対応」「意欲熱意」への改善優先度は低い。26年度後期は26年度前期と比較すると、「理解配慮」で改善優先度が低い。

### <改善優先度>



(ポイント)

\* 26年度後期全体より5ポイント以上高いものに網掛け

## 6 理解度を上げるための改善優先項目（教職課程・学芸員課程生）

教職課程・学芸員課程では、改善優先度は「目標到達」「興味喚起」「理解配慮」で高く、学生の自己評価の基礎知識が「ない」学生ほどその意向が強い。一方、「意欲熱意」「私語対応」への改善優先度は低い。26年度後期は26年度前期と比較すると、「興味喚起」で改善優先度が低い、「私語対応」ではやや高い。

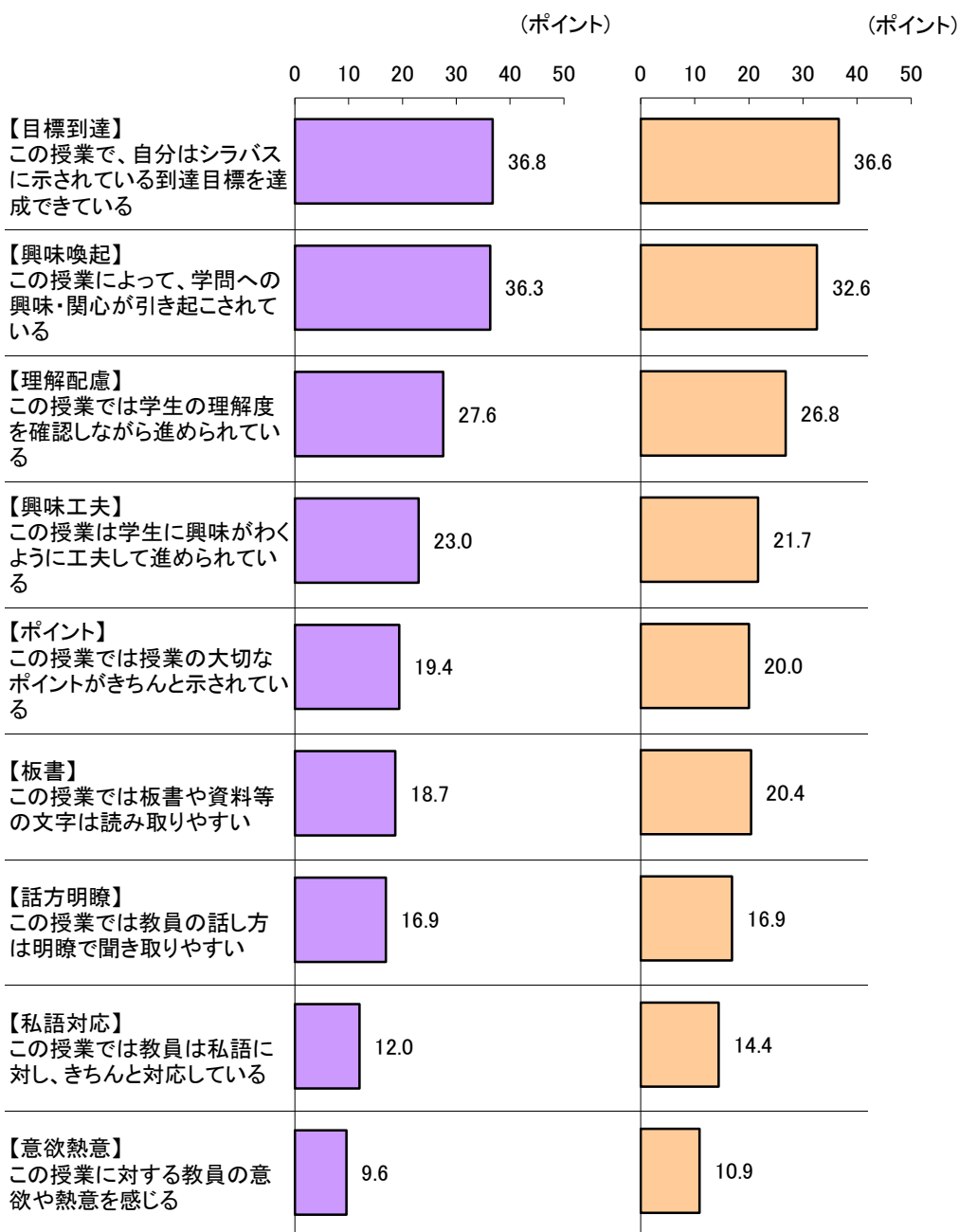
### <改善優先度>

#### 【教職課程・学芸員課程平均】

26年度前期 (N=1077)

26年度後期 (N=567)

26年度後期 基礎知識別		
ある (n=137)	どちらともいえない (n=232)	ない (n=196)
27.4	37.4	42.3
20.1	34.6	39.0
19.5	27.8	30.9
14.9	22.7	25.2
12.9	21.5	23.3
16.5	20.9	22.5
12.2	17.6	19.4
10.4	14.7	16.9
6.7	11.2	13.4



(ポイント)

\* 26年度後期全体より5ポイント以上高いものに網掛け

## 6 理解度を上げるための改善優先項目（全学共通教育部門生）

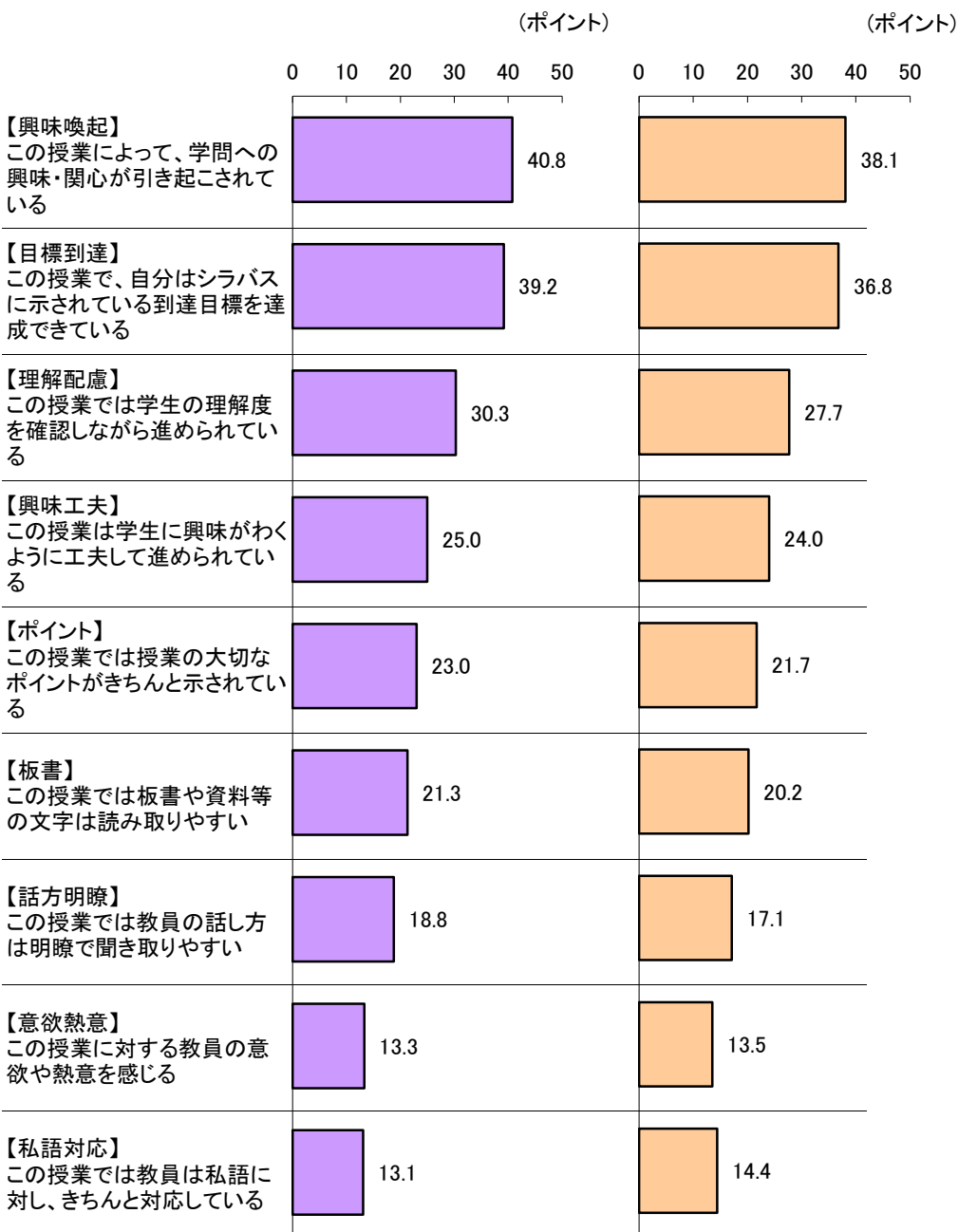
全学共通教育部門では、改善優先度は「興味喚起」「目標到達」「理解配慮」で高く、学生の自己評価の基礎知識が「ない」学生ほどその意向が強い。一方、「私語対応」「意欲熱意」への改善優先度は低い。26年度後期は26年度前期と比較すると、「興味喚起」「理解配慮」「目標到達」で改善優先度がやや低い。

### <改善優先度>

【全学共通教育部門平均】 26年度前期 (N=4524)

26年度後期 (N=3145)

26年度後期 基礎知識別		
ある (n=959)	どちらともいえない (n=1001)	ない (n=1182)
27.4	38.3	46.6
26.5	37.8	44.2
19.5	27.3	34.6
18.0	23.7	29.0
16.5	21.9	25.7
16.1	20.3	23.5
13.1	17.9	19.8
10.9	14.2	15.2
11.8	14.9	16.1



(ポイント)

\* 26年度後期全体より5ポイント以上高いものに網掛け

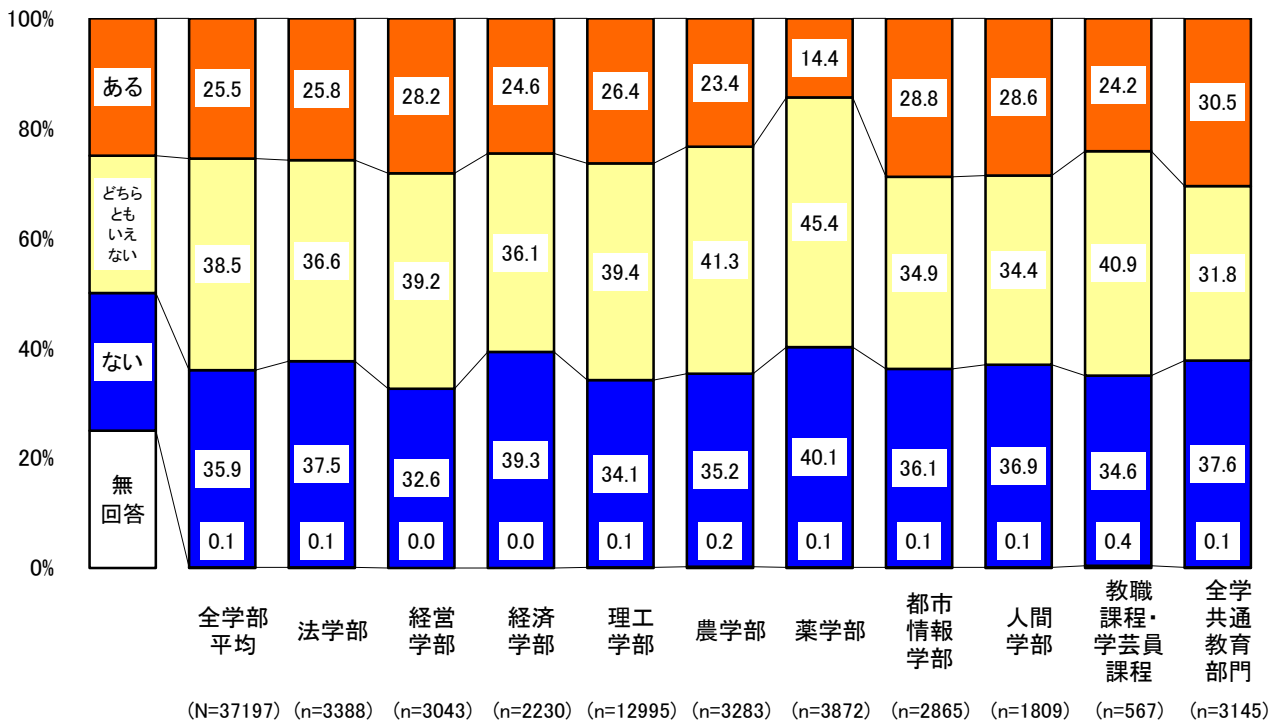
# 7 基礎知識別の理解度

[学生]

学生の基礎知識の分布と基礎知識別の理解度について調べた。  
 基礎知識が「ある」学生が全体の26%を占めるが、薬学部ではその割合が最も低い。  
 基礎知識が「ある」学生ほど理解度は高く、約8割が授業を理解している。一方、基礎知識が「ない」学生では、「授業を理解している」との回答は2割強にとどまる。

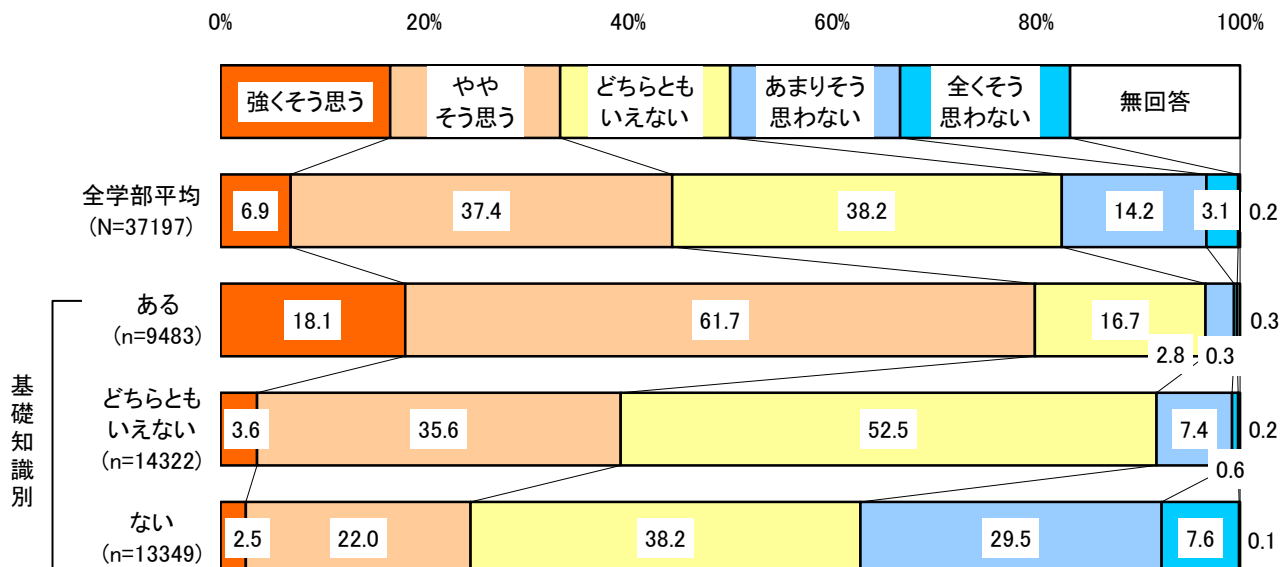
学生の基礎知識を聞いた「Q1. この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識が十分にある」についての回答をもとに、基礎知識が「ある」「どちらともいえない」「ない」に分類した。  
 また、各基礎知識別に理解度がどの程度変化があるのか確認する。

Q1. この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識が十分にある  
 <26年度後期 基礎知識レベルの分布> ※グラフは26年度後期のスコア



Q10. 自分はこの授業が理解できている。  
 <26年度後期 基礎知識別理解度>

※グラフは26年度後期のスコア





# 8 理解度と自学自習時間の関係 (1)

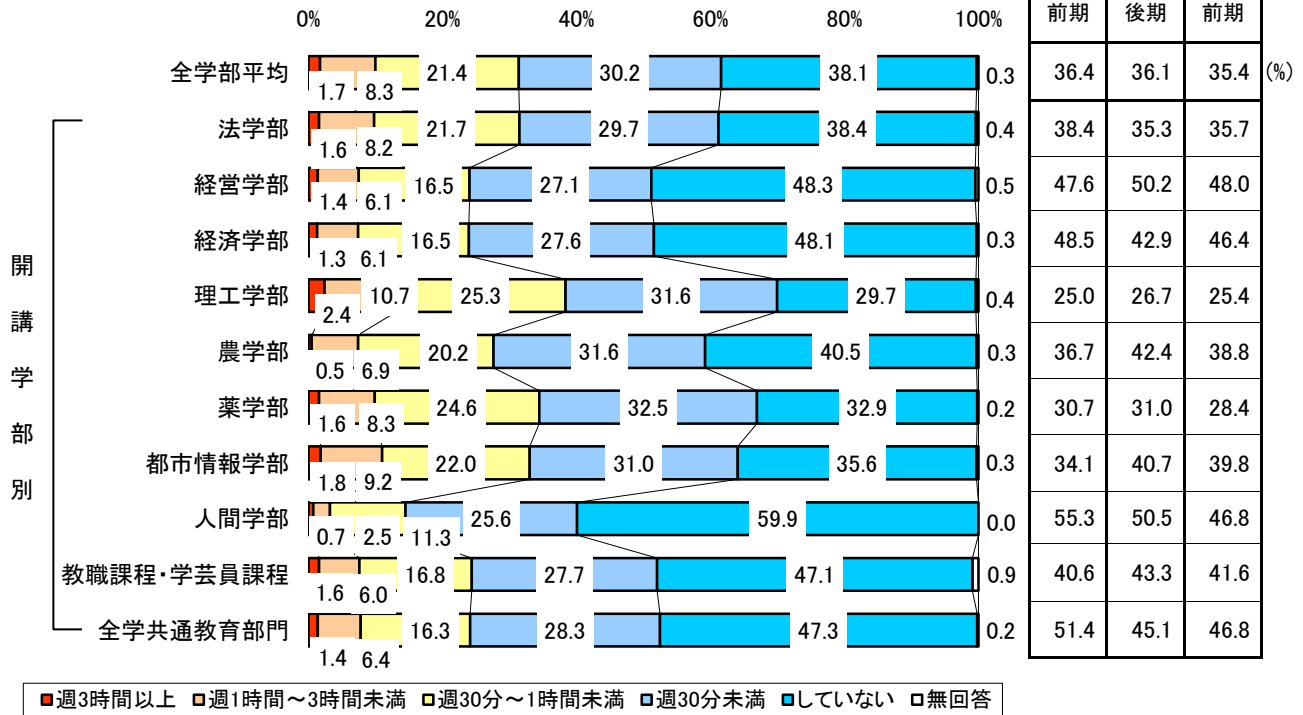
[学生]

自学自習時間と理解度との関係を各学部別に確認した。  
 自学自習をしていない学生が4割弱を占めるが、理工学部ではその割合が最も低い。  
 自学自習時間が長い学生ほど、授業に対する理解度が高い傾向がみられ、教職課程・学芸員課程では「週3時間以上」勉強している学生の理解度が特に上昇している。

Q2. この授業に対する1週間あたりの勉強時間(授業時間除く)は。

<26年度後期 開講学部別自学自習時間>

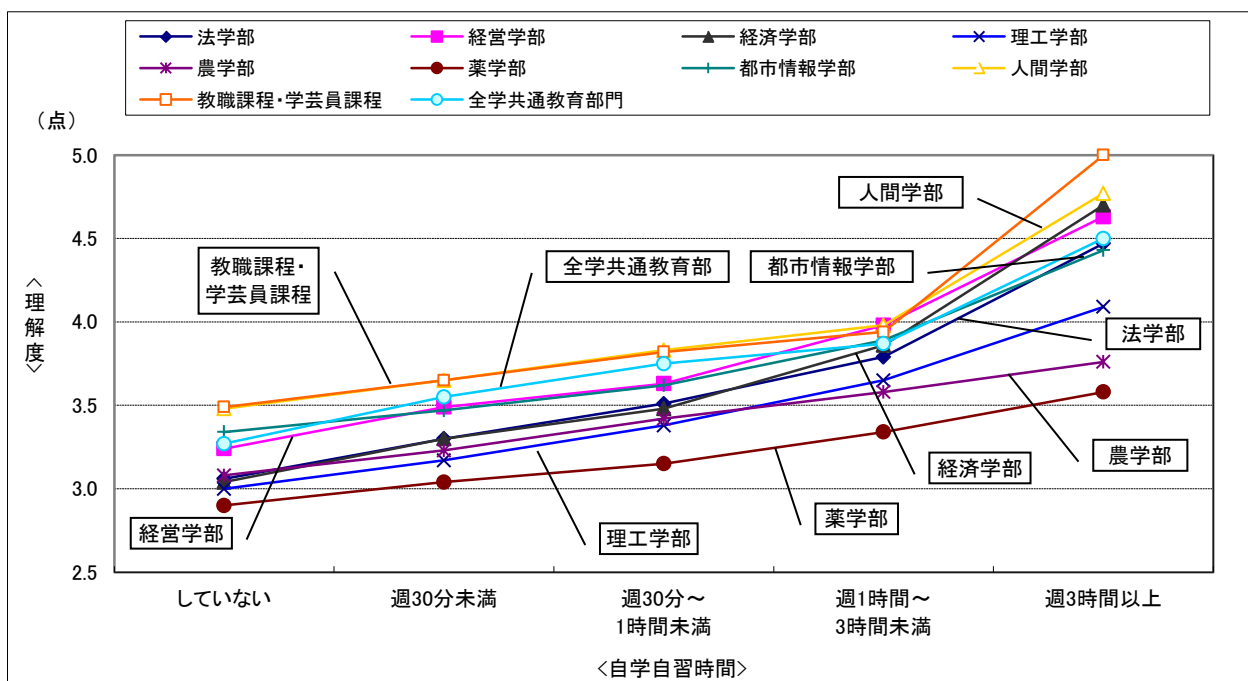
※グラフは26年度後期のスコア



Q10. 自分はこの授業が理解できている。

<26年度後期 理解度との関係>

※グラフは26年度後期のスコア



# 8 理解度と自学自習時間の関係 (2)

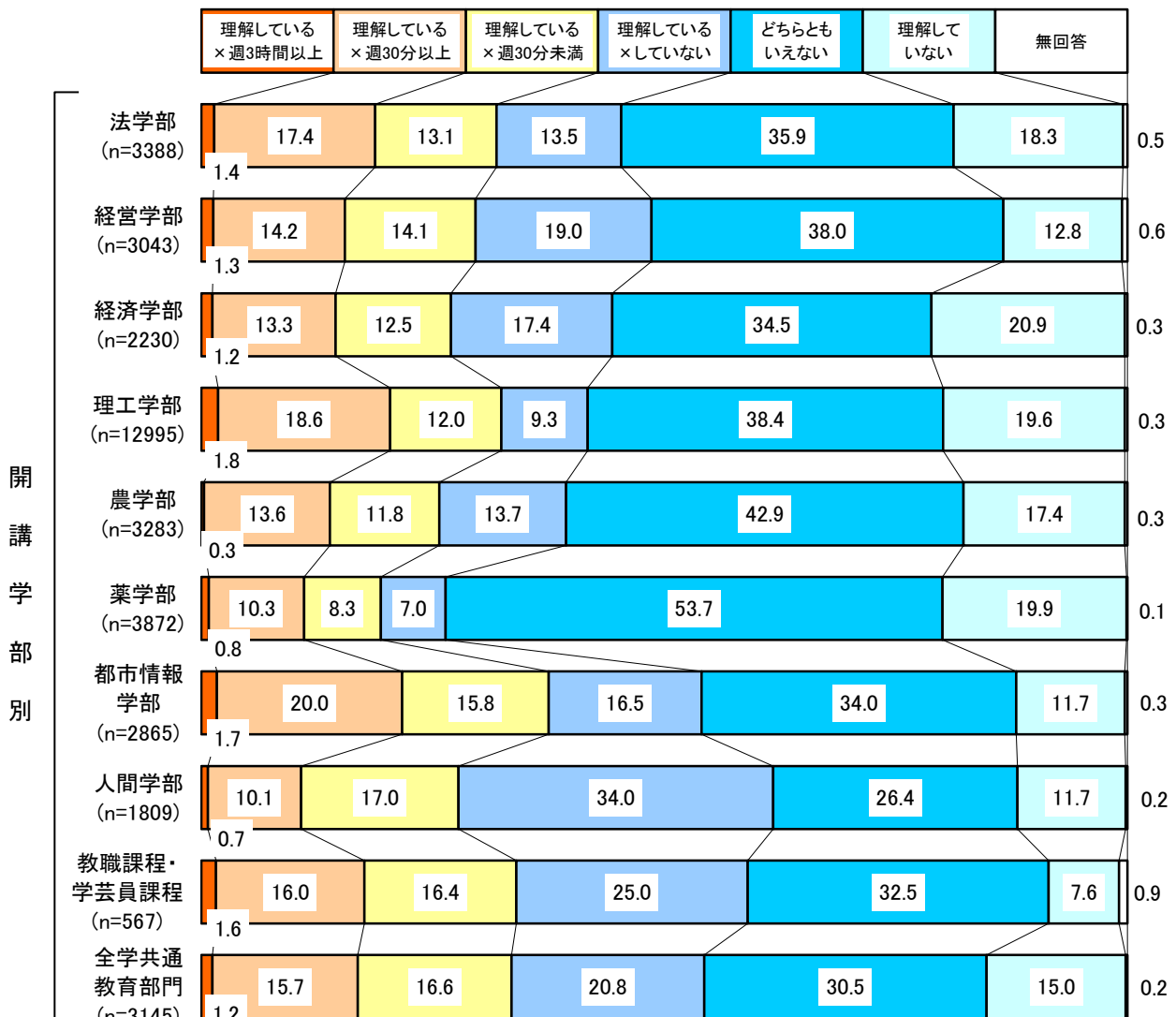
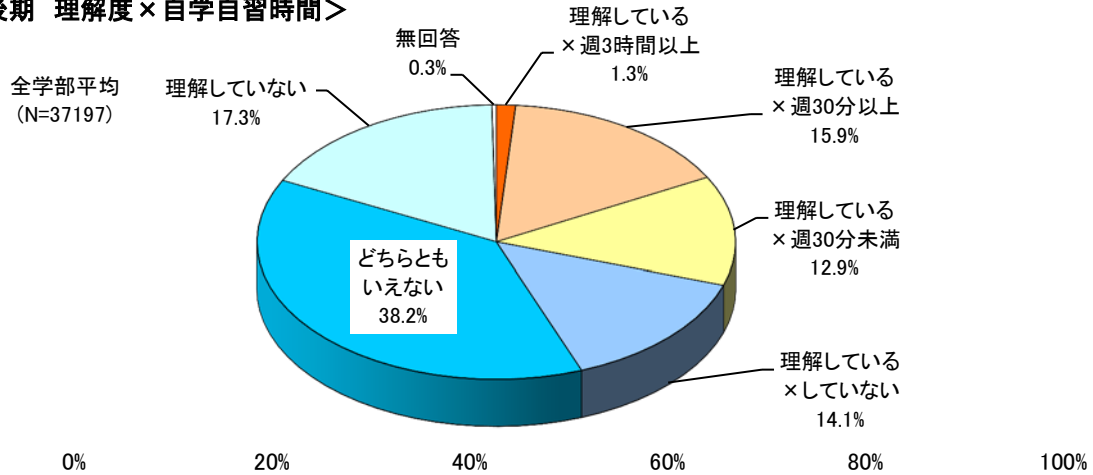
[学生]

理解度と自学自習時間の関係を見ると、「理解している」学生は全体の4割強。そのうち自学自習時間が「週3時間以上」の学生は1%にすぎず、学部別でも大きな差はみられない。また、「週30分以上」の学生は都市情報学部、理工学部で約2割を占める。経済学部、薬学部、理工学部、法学部、農学部で「理解していない」割合が高い。

Q2. この授業に対する1週間あたりの勉強時間(授業時間除く)は。

Q10. 自分はこの授業が理解できている。

<26年度後期 理解度×自学自習時間>



※「理解している」は「強くそう思う」+「ややそう思う」、「理解していない」は「あまりそう思わない」+「全くそう思わない」

# 8 理解度と自学自習時間の関係（3）（授業プロット）

[授業]

自学自習時間と理解度の関係を平面上に各授業をプロットした。  
 自学自習時間も長く、理解度の高い右上の①象限にある授業数の割合は25年度後期と比較すると大きな変化はない。

### <理解度×自学自習時間>

26年度後期

象限	授業数(631授業)	
①	134	21.2
②	127	20.1
③	202	32.0
④	168	26.6%

26年度前期

象限	授業数(675授業)	
①	143	21.2
②	124	18.4
③	220	32.6
④	188	27.9%

25年度後期

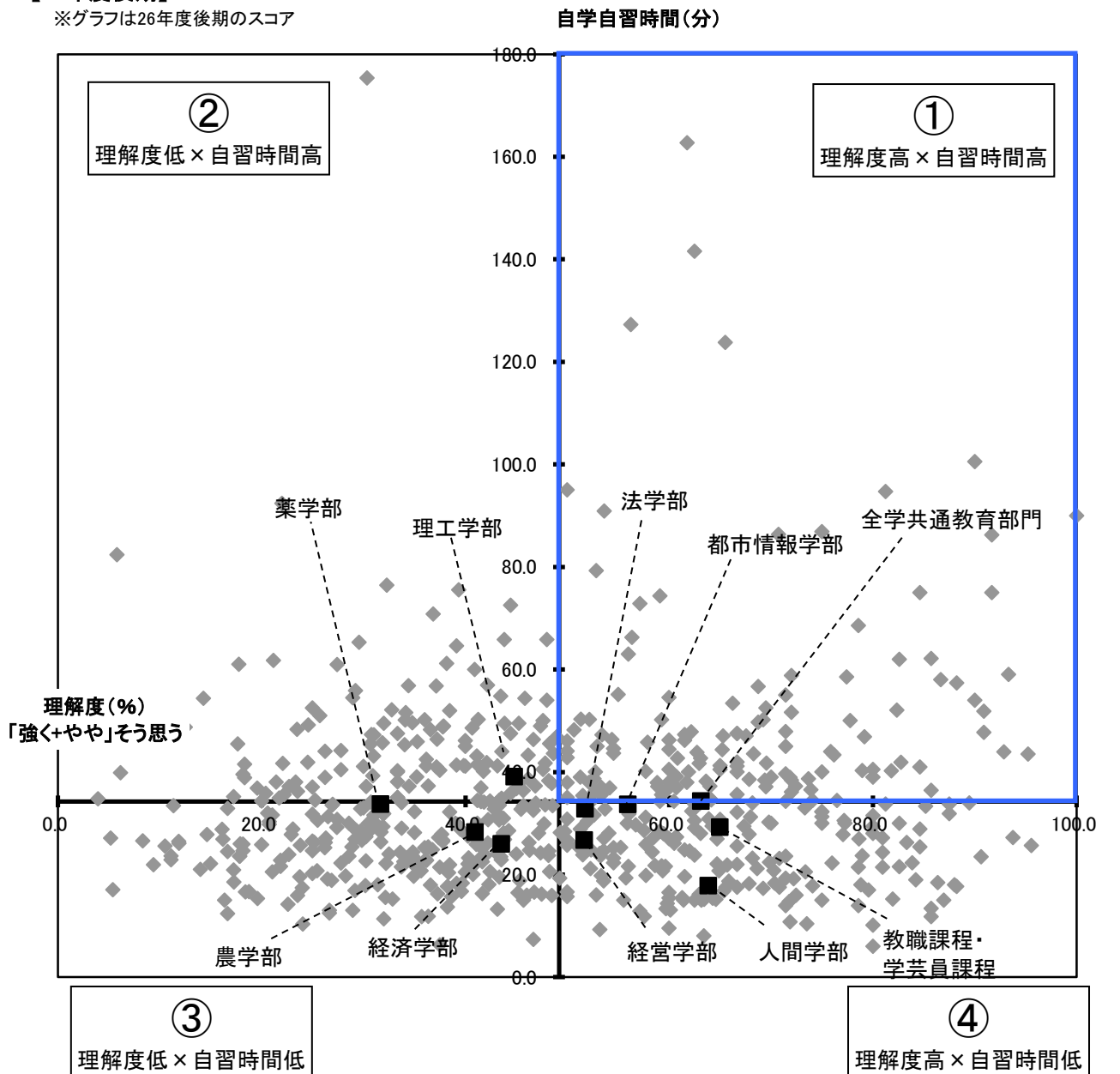
象限	授業数(638授業)	
①	133	20.8
②	131	20.5
③	185	29.0
④	189	29.6%

25年度前期

象限	授業数(740授業)	
①	166	22.4
②	136	18.4
③	239	32.3
④	199	26.9%

### 【26年度後期】

※グラフは26年度後期のスコア



※軸は理解度(「強く+やや」)・自学自習時間の平均

## 8 理解度と自学自習時間の関係（3）（授業プロット）

[授業]

自学自習時間が長く、理解度も高い①象限に含まれる授業が多かった学部は、全学共通教育部門、都市情報学部。特に都市情報学部は①象限の授業が25年度後期よりも10ポイント以上増加した。一方、経営学部は25年度前期よりも10ポイント以上低下した。薬学部、人間学部、経済学部は①象限の授業が1割に届かない。

### <理解度×自学自習時間>

#### 【全学部平均】

象限	26年度後期 (631授業)	26年度前期 (675授業)	25年度後期 (638授業)	25年度前期 (740授業)
①	21.2	21.2	20.8	22.4
②	20.1	18.4	20.5	18.4
③	32.0	32.6	29.0	32.3
④	26.6	27.9	29.6	26.9

#### 【法学部】

象限	26年度後期 (73授業)	26年度前期 (85授業)	25年度後期 (81授業)	25年度前期 (97授業)
①	21.9	28.2	27.2	33.0
②	15.1	8.2	14.8	15.5
③	30.1	36.5	25.9	29.9
④	32.9	27.1	32.1	21.6

#### 【薬学部】

象限	26年度後期 (39授業)	26年度前期 (41授業)	25年度後期 (40授業)	25年度前期 (83授業)
①	5.1	9.8	2.5	13.3
②	38.5	36.6	42.5	38.6
③	41.0	41.5	40.0	33.7
④	15.4	12.2	15.0	14.5

#### 【経営学部】

象限	26年度後期 (39授業)	26年度前期 (39授業)	25年度後期 (37授業)	25年度前期 (38授業)
①	10.3	2.6	8.1	13.2
②	0.0	5.1	0.0	2.6
③	48.7	43.6	40.5	50.0
④	41.0	48.7	51.4	34.2

#### 【都市情報学部】

象限	26年度後期 (38授業)	26年度前期 (36授業)	25年度後期 (38授業)	25年度前期 (41授業)
①	34.2	22.2	21.1	29.3
②	7.9	13.9	5.3	2.4
③	28.9	33.3	28.9	34.1
④	28.9	30.6	44.7	34.1

#### 【経済学部】

象限	26年度後期 (23授業)	26年度前期 (23授業)	25年度後期 (25授業)	25年度前期 (26授業)
①	8.7	0.0	8.0	0.0
②	4.3	4.3	8.0	3.8
③	52.2	65.2	40.0	69.2
④	34.8	30.4	44.0	26.9

#### 【人間学部】

象限	26年度後期 (20授業)	26年度前期 (25授業)	25年度後期 (17授業)	25年度前期 (26授業)
①	5.0	8.0	5.9	11.5
②	0.0	0.0	0.0	0.0
③	20.0	24.0	11.8	15.4
④	75.0	68.0	82.4	73.1

#### 【理工学部】

象限	26年度後期 (258授業)	26年度前期 (265授業)	25年度後期 (243授業)	25年度前期 (260授業)
①	21.3	27.9	21.4	24.2
②	32.9	28.7	34.2	26.9
③	28.7	27.5	27.2	31.5
④	17.1	15.8	17.3	17.3

#### 【教職課程・学芸員課程】

象限	26年度後期 (13授業)	26年度前期 (23授業)	25年度後期 (18授業)	25年度前期 (27授業)
①	30.8	21.7	33.3	22.2
②	0.0	4.3	5.6	7.4
③	23.1	30.4	16.7	18.5
④	46.2	43.5	44.4	51.9

#### 【農学部】

象限	26年度後期 (39授業)	26年度前期 (45授業)	25年度後期 (43授業)	25年度前期 (45授業)
①	12.8	2.2	7.0	8.9
②	15.4	17.8	14.0	15.6
③	59.0	40.0	48.8	37.8
④	12.8	40.0	30.2	37.8

#### 【全学共通教育部門】

象限	26年度後期 (89授業)	26年度前期 (93授業)	25年度後期 (96授業)	25年度前期 (97授業)
①	36.0	25.8	36.5	30.9
②	6.7	9.7	8.3	7.2
③	20.2	25.8	20.8	23.7
④	37.1	38.7	34.4	38.1

\* 全体より10ポイント以上高いものに網掛け

各授業における受講者数(登録学生数)とアンケート回答者数から出席率を算出した。出席率が高いのは薬学部で9割に達する。一方、経済学部、都市情報学部では6割に届かない。

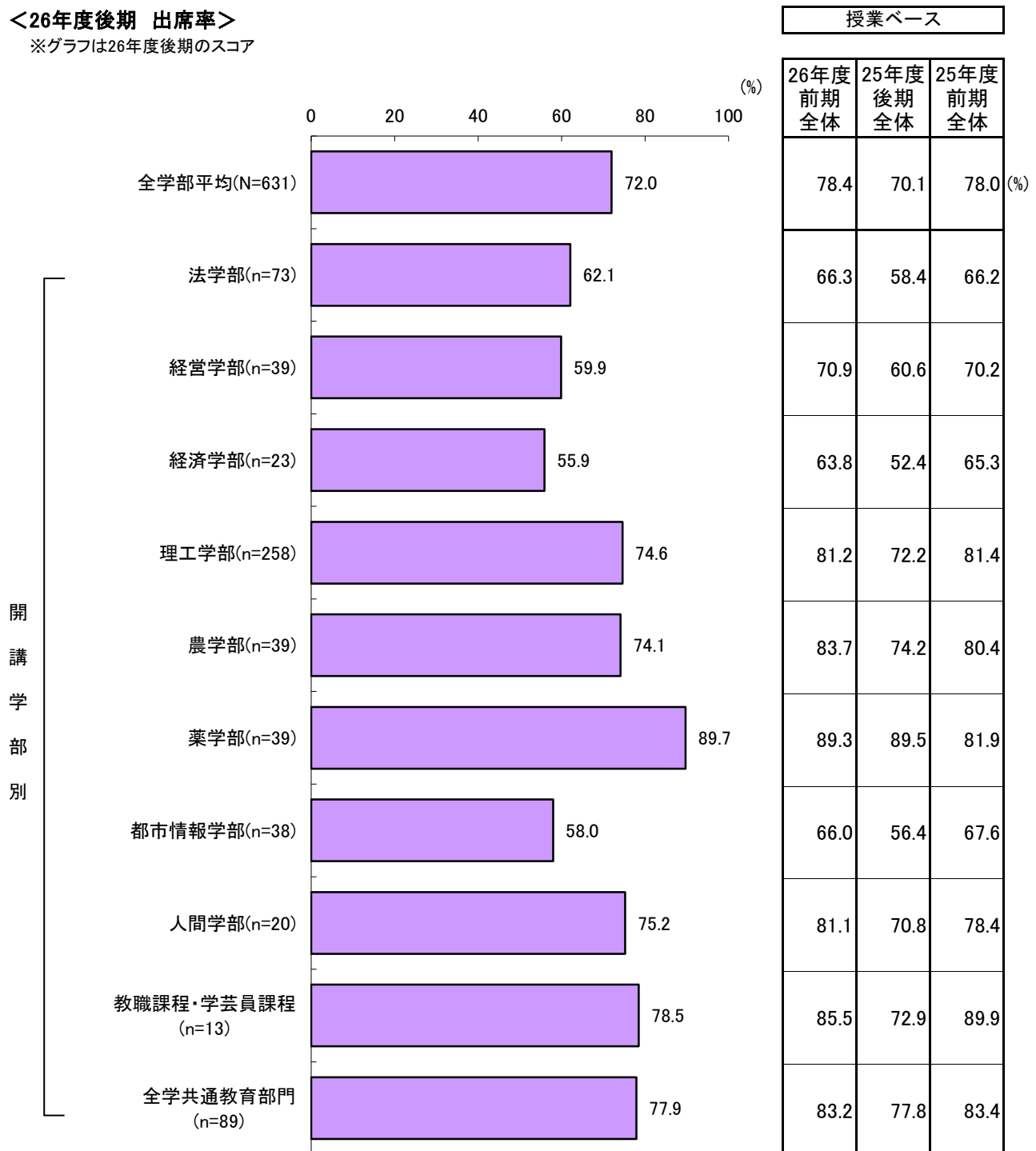
各授業の受講学生(登録学生)数と本アンケート調査の回答者数をもとに出席率を計算した。ここで表す出席率とは

$$\text{出席率} = \frac{\text{本アンケート回答者数(各授業における)}}{\text{受講者数(登録学生数)}}$$

とした。

### <26年度後期 出席率>

※グラフは26年度後期のスコア



# 10 出席学生数と出席学生規模別理解度

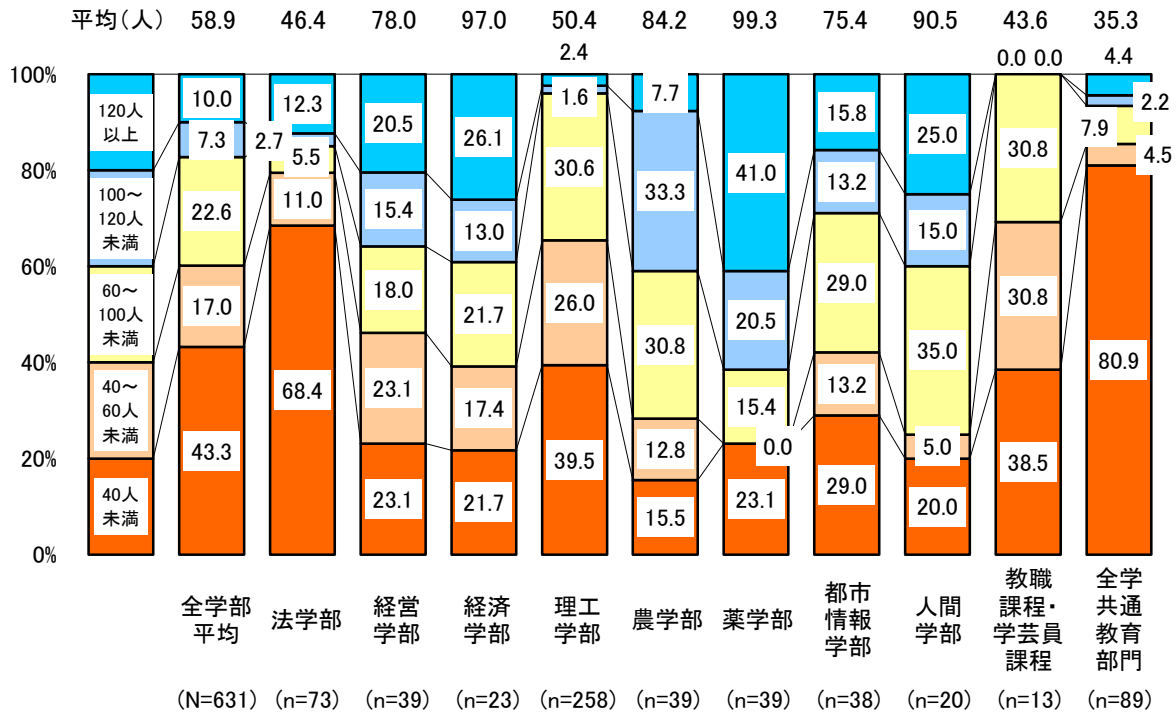
[授業]

各授業別の回答者数を出席学生数と捉え、出席学生数別に理解度を確認した。1クラスあたりの出席者が40人未満になると理解度が高くなることが確認できる。それ以上の出席者の授業では出席者の人数による理解度の変化は小さい。

## <26年度後期 一授業あたりの出席学生数(アンケート回答者数)>

※グラフは26年度後期のスコア

授業ベース

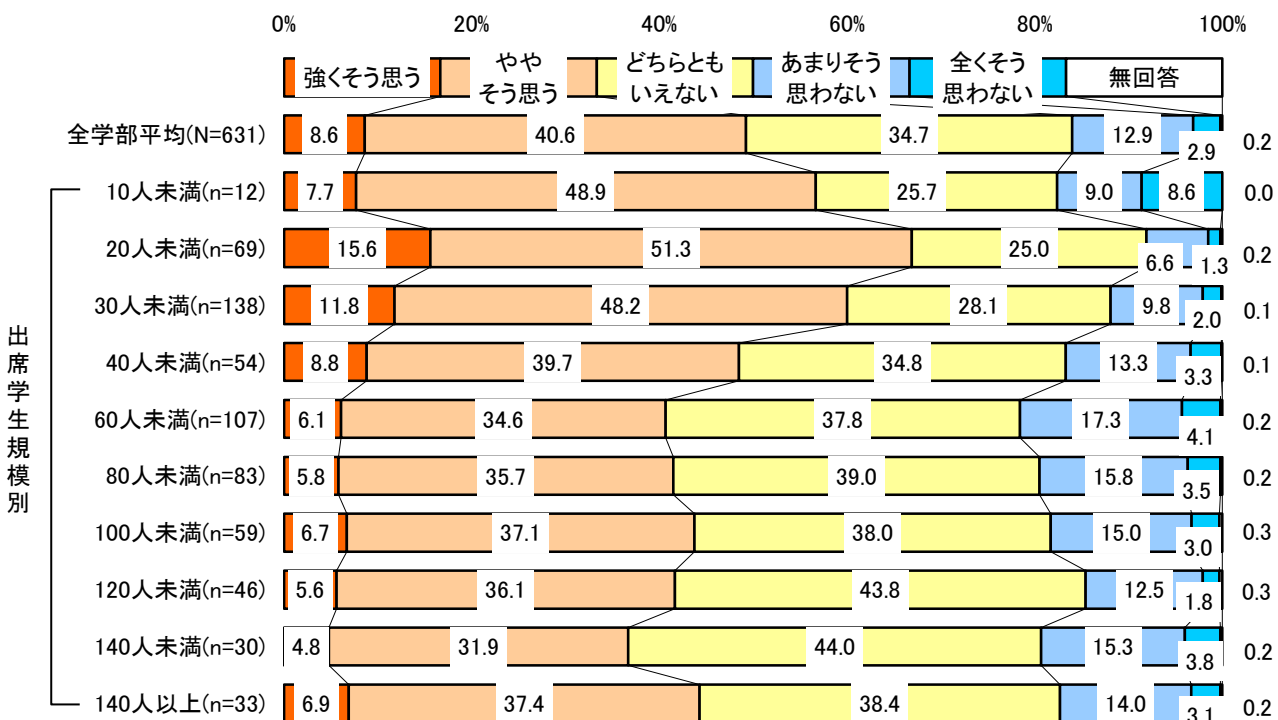


## Q10. 自分はこの授業が理解できている。

### <26年度後期 出席学生(アンケート回答者)規模別理解度>

※グラフは26年度後期のスコア

授業ベース



基礎データ

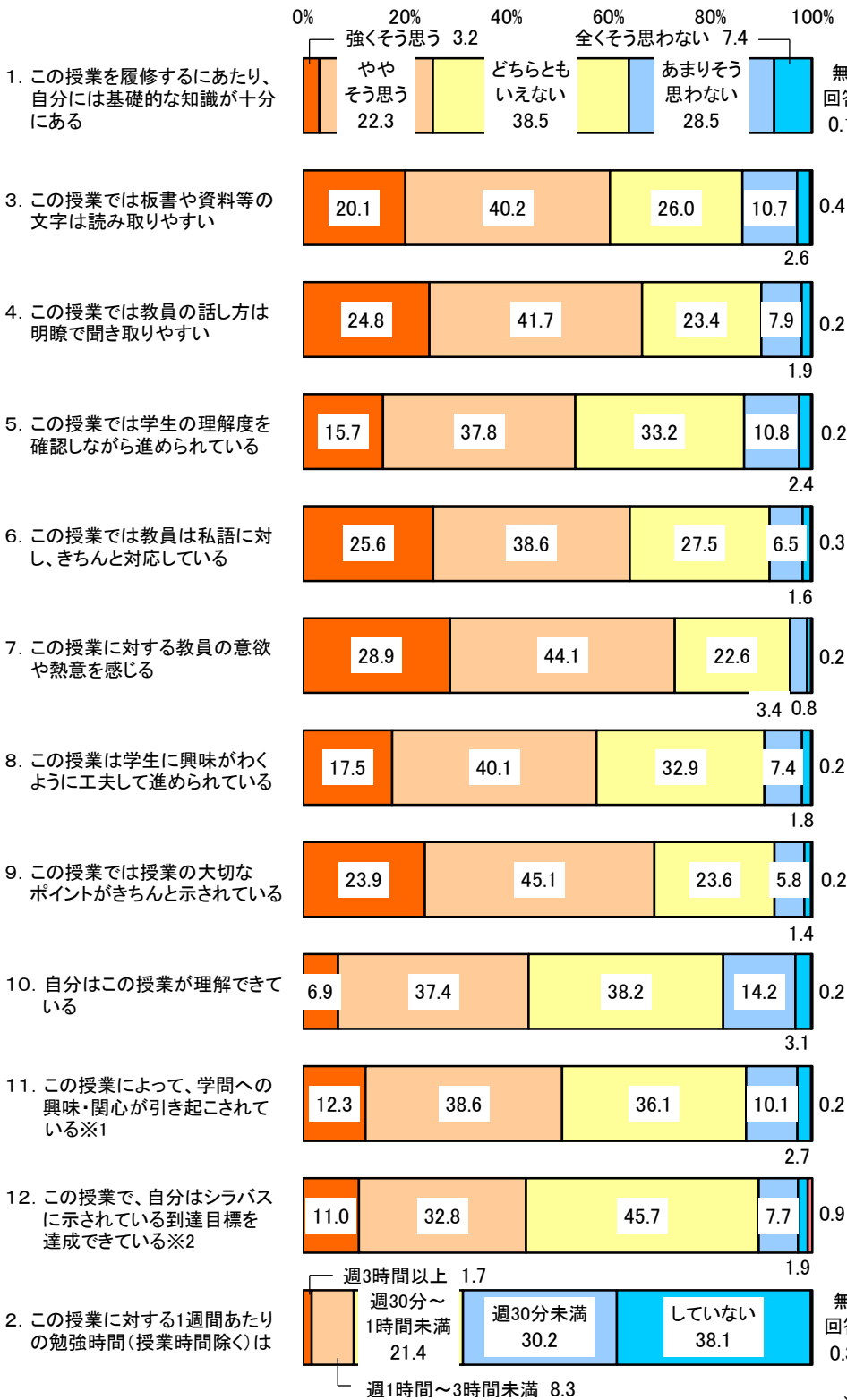
# 11 学生評価の時系列比較

[学生]

半数以上の学生は、教員が多くの項目において授業改善に努めていること、意欲や熱意を持って授業を進めていると感じており、学問への興味・関心が引き起こされたとしている。

## 【26年度後期 全学部平均】(N=37197)

※グラフは26年度後期のスコア



	26年度後期常勤	26年度後期非常勤	26年度前期全体	25年度後期全体	25年度前期全体
1. この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識が十分にある	24.1	28.5	25.9	24.6	24.5
3. この授業では板書や資料等の文字は読み取りやすい	59.6	61.8	58.8	60.7	57.7
4. この授業では教員の話方は明瞭で聞き取りやすい	65.3	69.3	64.8	67.0	64.2
5. この授業では学生の理解度を確認しながら進められている	52.4	55.9	51.1	53.5	50.3
6. この授業では教員は私語に対し、きちんと対応している	66.1	60.1	64.7	66.1	63.9
7. この授業に対する教員の意欲や熱意を感じる	72.6	74.0	73.2	73.5	72.4
8. この授業は学生に興味がわくように工夫して進められている	56.2	61.0	55.8	57.8	55.8
9. この授業では授業の大切なポイントがきちんと示されている	68.6	69.7	68.5	70.0	68.2
10. 自分はこの授業が理解できている	41.9	49.4	45.2	45.8	45.6
11. この授業によって、学問への興味・関心が引き起こされている※1	50.3	52.0	49.5	52.6	51.3
12. この授業で、自分はシラバスに示されている到達目標を達成できている※2	42.3	47.1	43.9	51.6	48.7
2. この授業に対する1週間あたりの勉強時間(授業時間除く)は	10.3	9.4	11.3	10.9	11.1

※数表は各設問上位2選択肢の合計(%)

(※1)平成25年度は「この授業によって、学問への興味・関心が引き起こされた」で測定  
(今回は「引き起こされた」→「引き起こされている」へ変更)

(※2)平成25年度は「この授業ではシラバスに示されている到達目標を達成できた」で測定  
(今回は「自分は」を追加し、「達成できた」→「達成できている」へ変更)



# 12 基礎データ学生用設問 基礎知識

[学生]

基礎知識に関する学生の自己評価は低く、十分な基礎知識があると「強くそう思う」と回答した学生はいずれの学部も5%に届かない。

【26年度後期】 Q1. この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識が十分にある。

※グラフは26年度後期のスコア



※数表は「強くそう思う」+「ややそう思う」(%)

# 12 基礎データ学生用設問 自学自習時間

[学生]

4割弱の学生が、自学自習を全くしていないと回答しており、人間学部では6割にのぼる。理工学部は他学部等 비해勉強時間が長い。

【26年度後期】 Q2. この授業に対する1週間あたりの勉強時間(授業時間除く)は。

※グラフは26年度後期のスコア



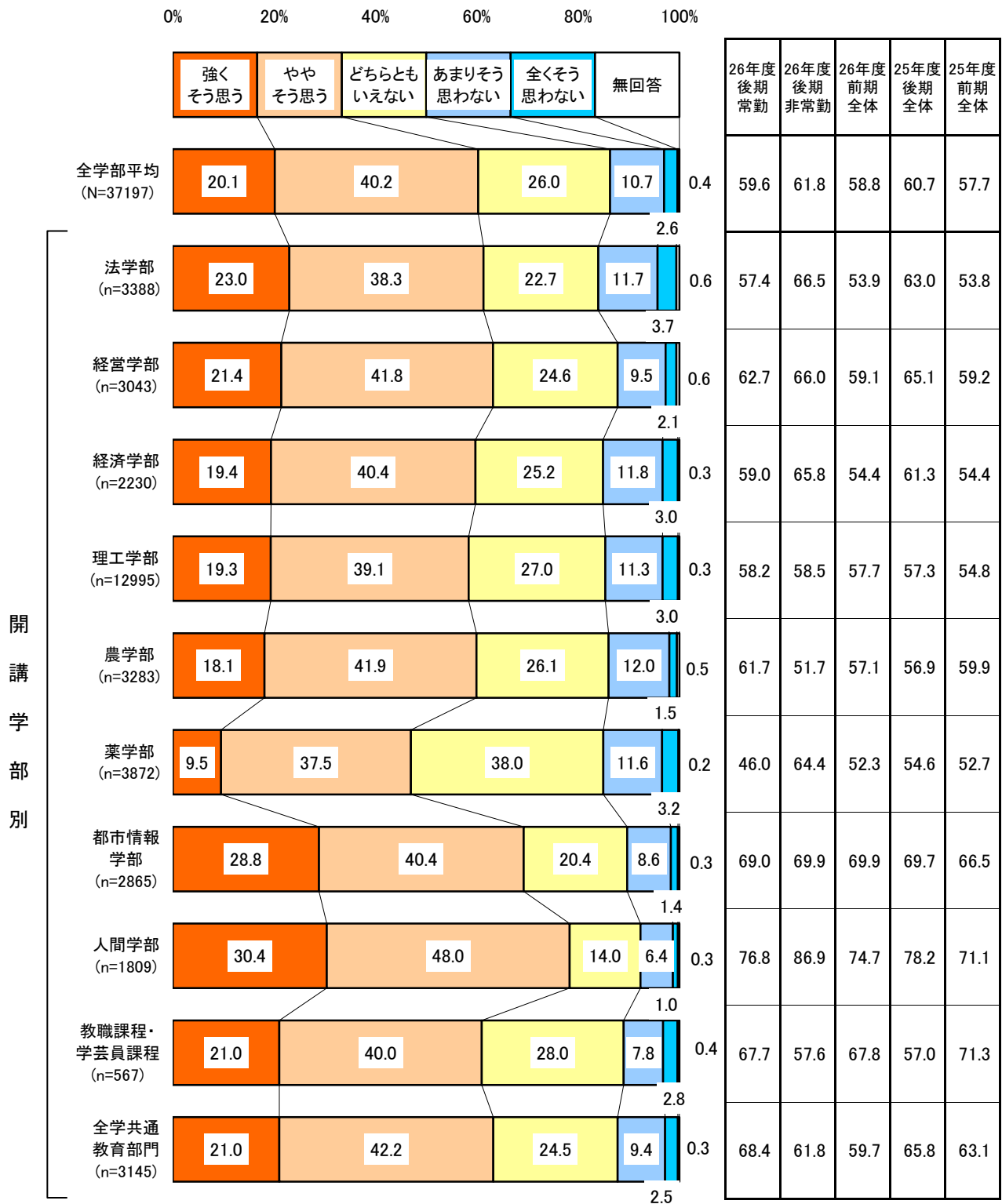
※数表は「週3時間以上」+「週1時間~3時間未満」(%)

# 12 基礎データ学生用設問 板書

[学生]

板書や資料等の文字は読み取りやすいと回答した学生は6割を超え、人間学部では約8割にのぼる。

【26年度後期】 Q3. この授業では板書や資料等の文字は読み取りやすい。  
 ※グラフは26年度後期のスコア



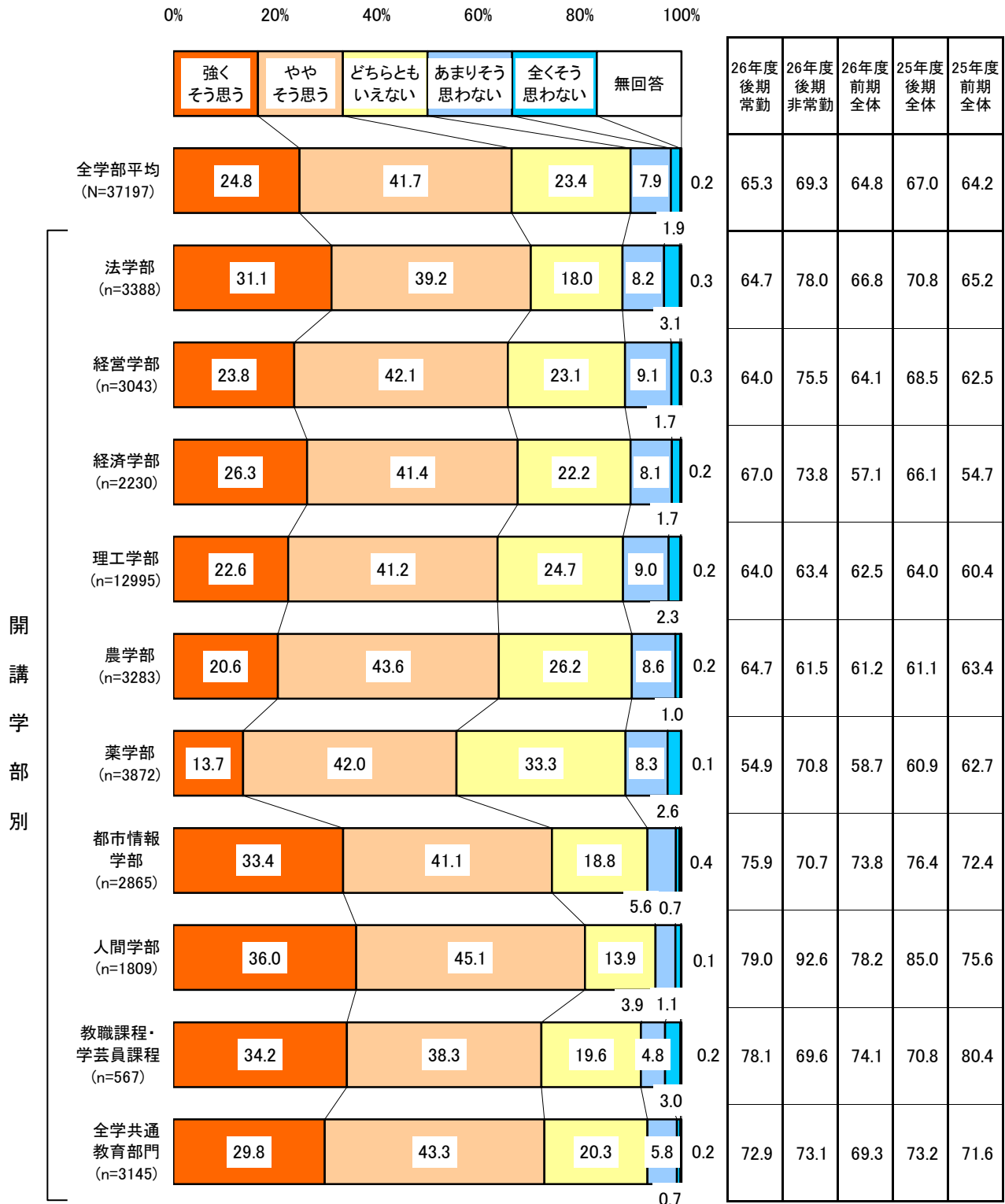
※数表は「強く思う」+「やや思う」(%)

# 12 基礎データ学生用設問 話方明瞭

[学生]

7割弱の学生は教員の話し方は明瞭で聞き取りやすいと回答しており、人間学部では8割を超える。

【26年度後期】 Q4. この授業では教員の話し方は明瞭で聞き取りやすい。  
 ※グラフは26年度後期のスコア



※数表は「強くそう思う」+「ややそう思う」(%)

# 12 基礎データ学生用設問 理解配慮

[学生]

教員が理解度に配慮した授業を行っている」と回答した学生は5割強。人間学部、都市情報学部では6割台と高い。

【26年度後期】 Q5. この授業では学生の理解度を確認しながら進められている。

※グラフは26年度後期のスコア



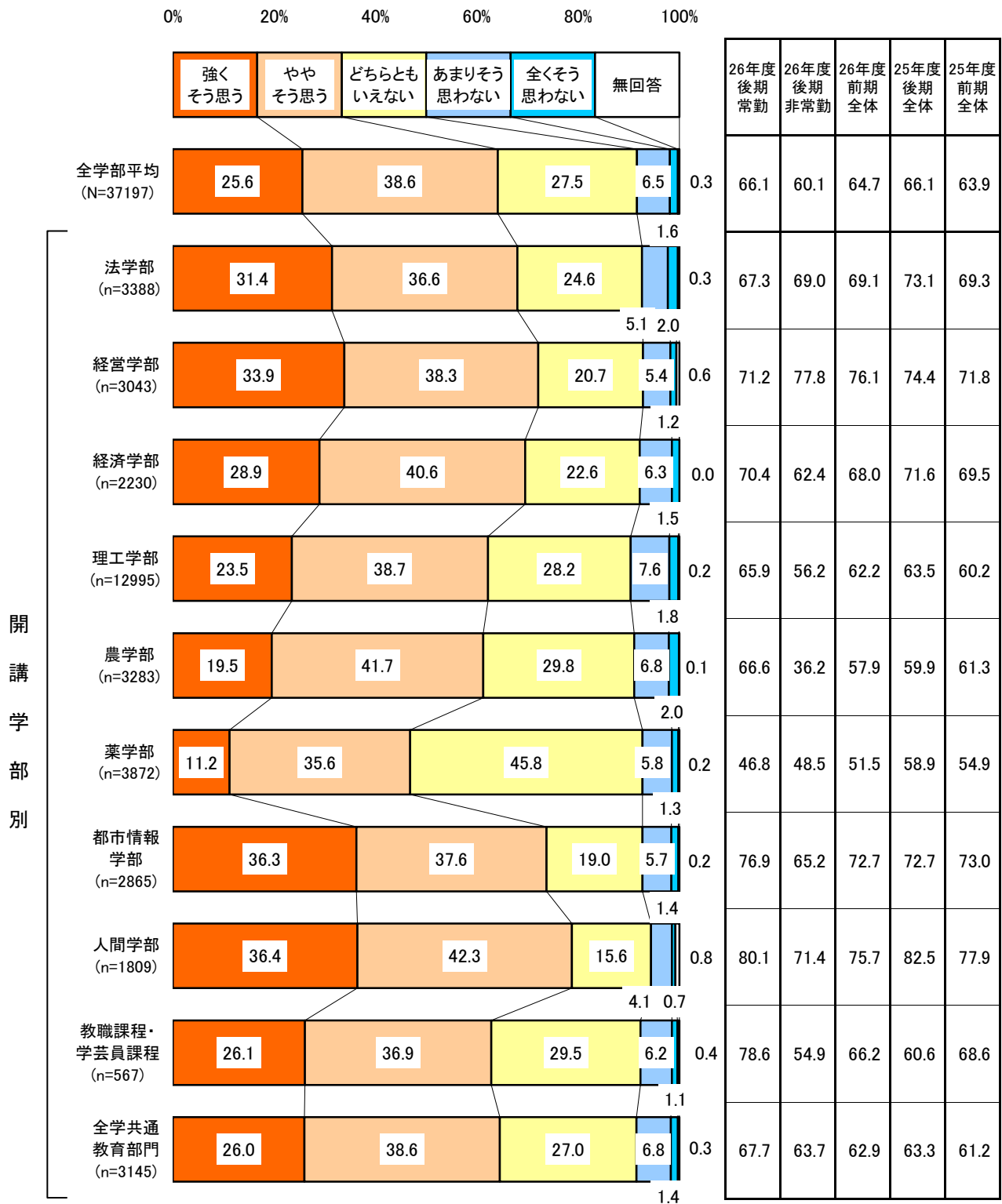
※数表は「強く思う」+「やや思う」(%)

# 12 基礎データ学生用設問 私語対応

[学生]

6割強の学生は、教員が私語に対し、きちんと対応していると回答し、人間学部では約8割にのぼる。

【26年度後期】 Q6. この授業では教員は私語に対し、きちんと対応している。  
 ※グラフは26年度後期のスコア



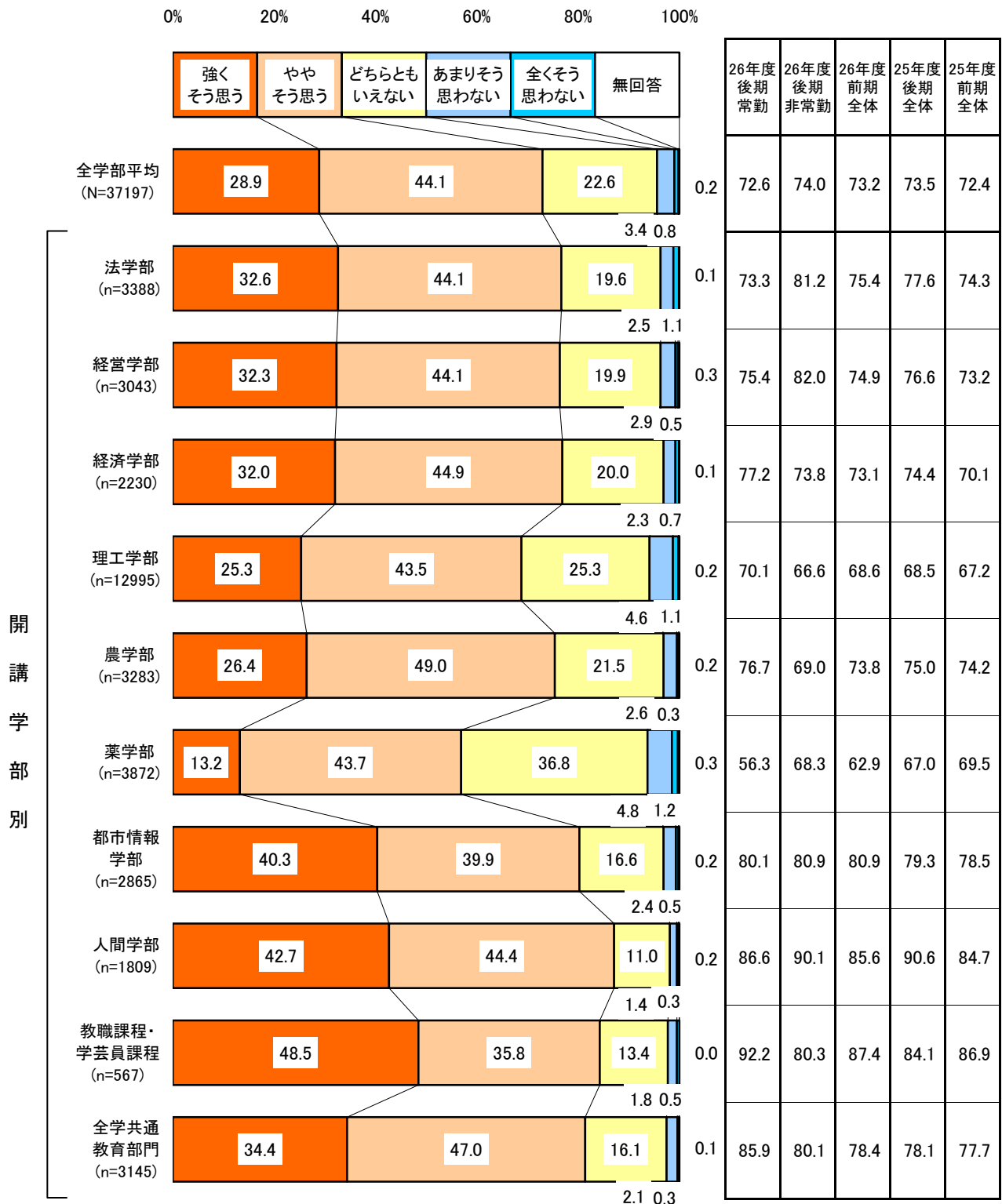
※数表は「強く思う」+「やや思う」(%)

# 12 基礎データ学生用設問 意欲熱意

[学生]

7割強の学生は授業に対する教員の意欲や熱意を感じており、特に人間学部では9割弱にのぼる。

【26年度後期】 Q7. この授業に対する教員の意欲や熱意を感じる。  
 ※グラフは26年度後期のスコア



※数表は「強く思う」+「やや思う」(%)

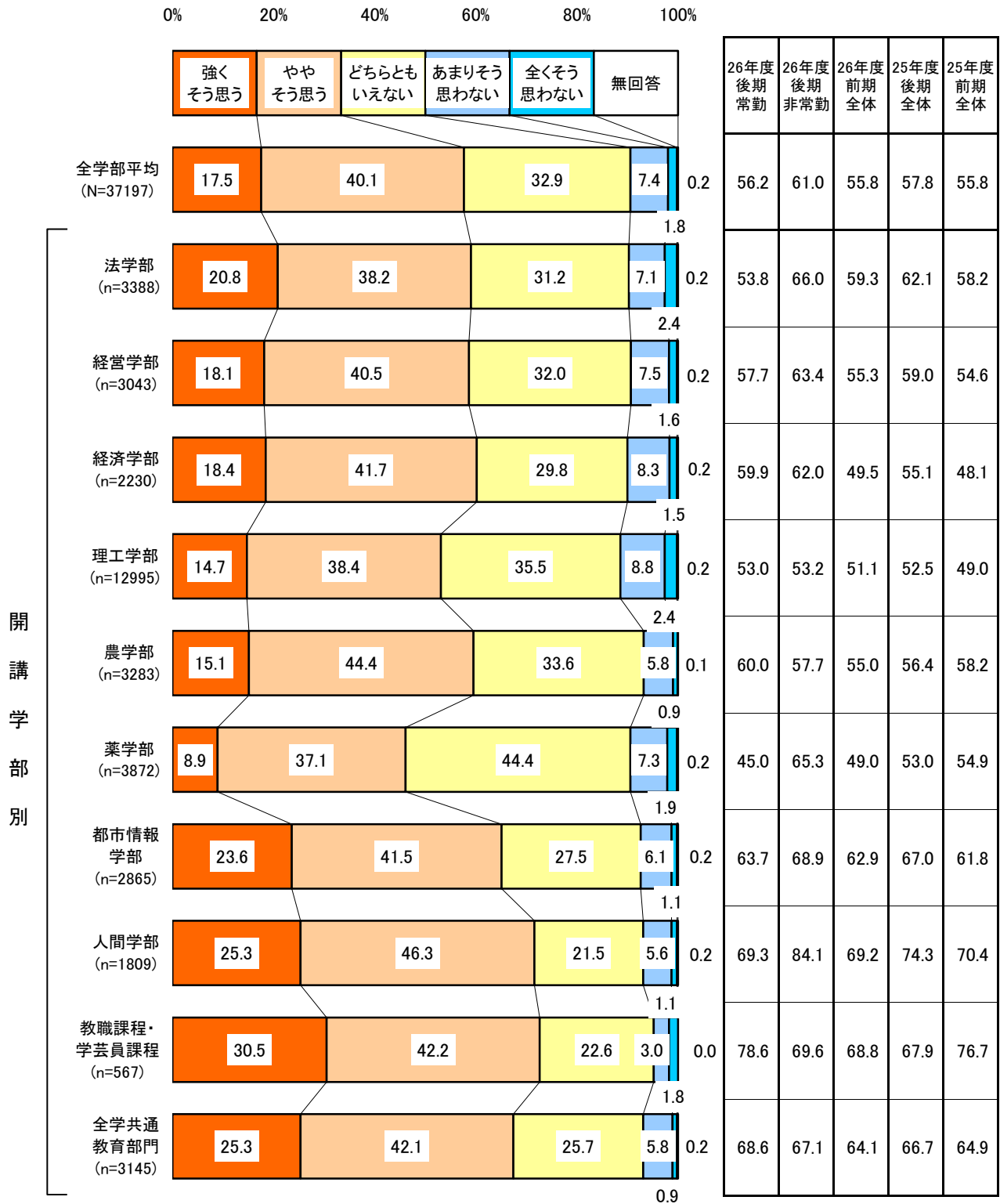
# 12 基礎データ学生用設問 興味工夫

[学生]

6割弱の学生は、教員が授業に興味を持たせる努力をしていると感じている。中でも人間学部、教職課程・学芸員課程では7割強にのぼる。

【26年度後期】 Q8. この授業は学生に興味がわくように工夫して進められている。

※グラフは26年度後期のスコア



※数表は「強く思う」+「やや思う」(%)

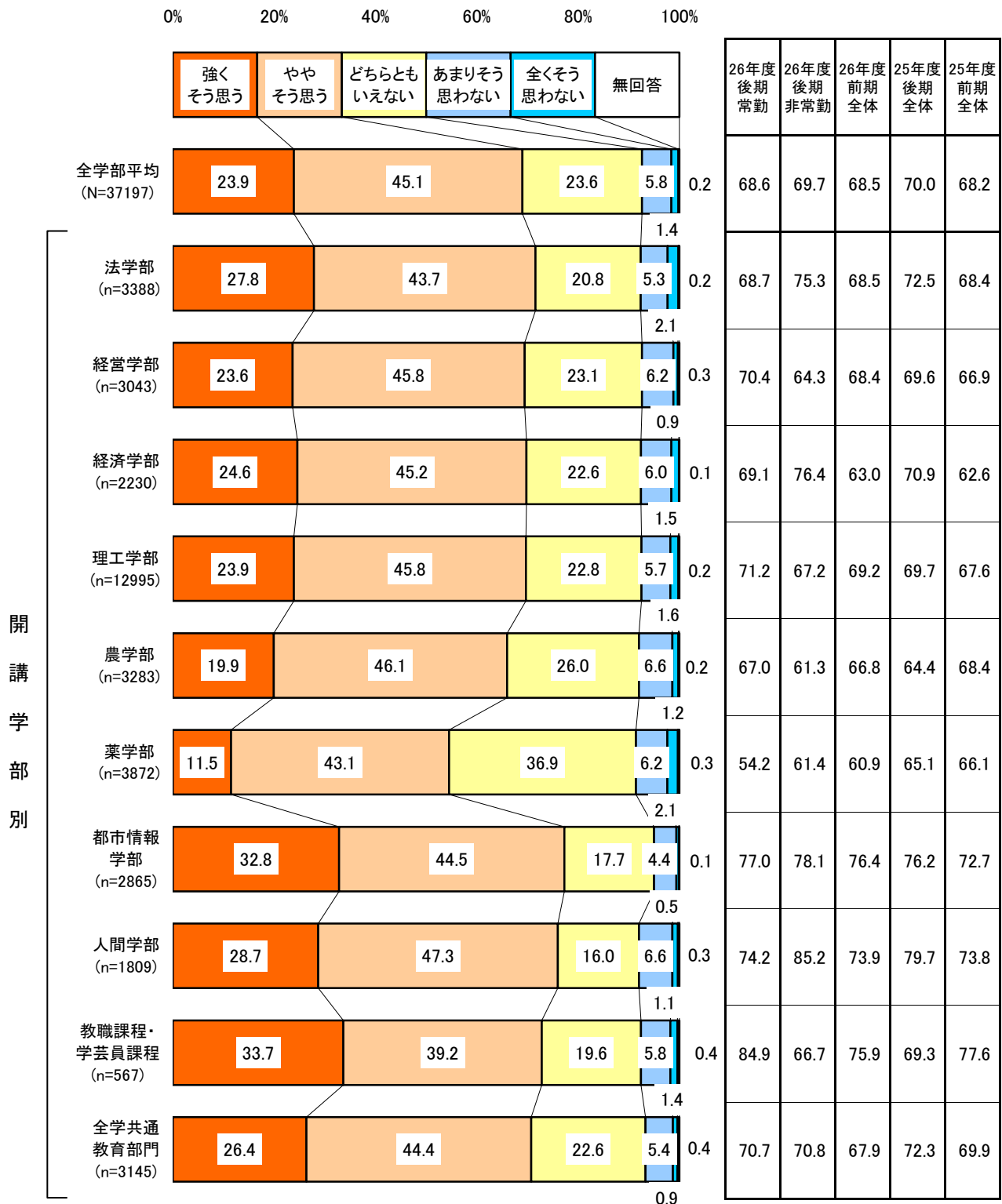


# 12 基礎データ学生用設問 ポイント

[学生]

約7割の学生は、授業において大切なポイントがきちんと提示されていると回答している。  
中でも都市情報学部、人間学部では8割弱にのぼる。

【26年度後期】 Q9. この授業では授業の大切なポイントがきちんと示されている。  
※グラフは26年度後期のスコア



※数表は「強く思う」+「やや思う」(%)

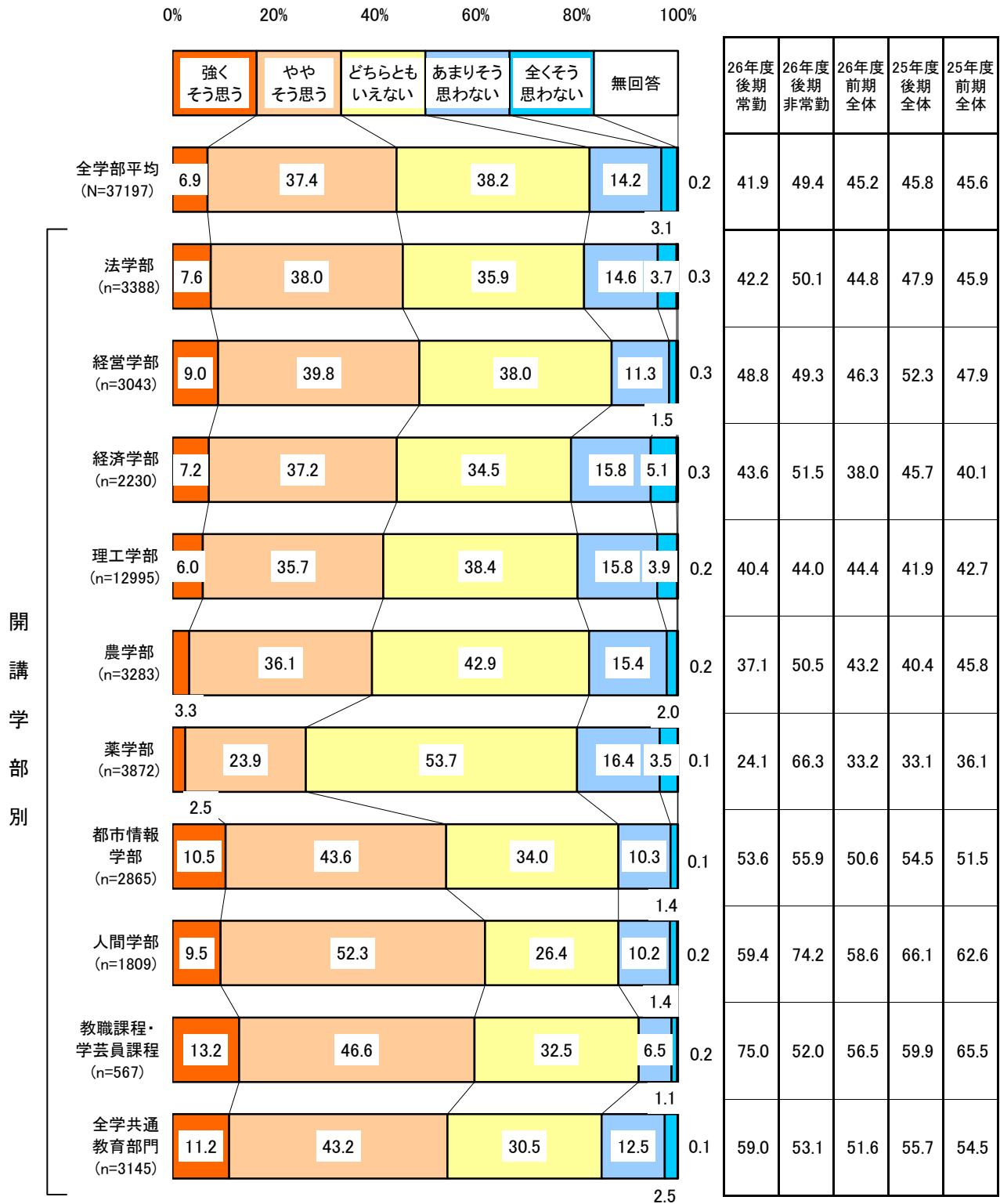
# 12 基礎データ学生用設問 理解度

[学生]

授業が理解できていると回答した学生は4割強。人間学部、教職課程・学芸員課程では6割前後と理解度が高い。

【26年度後期】 Q10. 自分はこの授業が理解できている。

※グラフは26年度後期のスコア



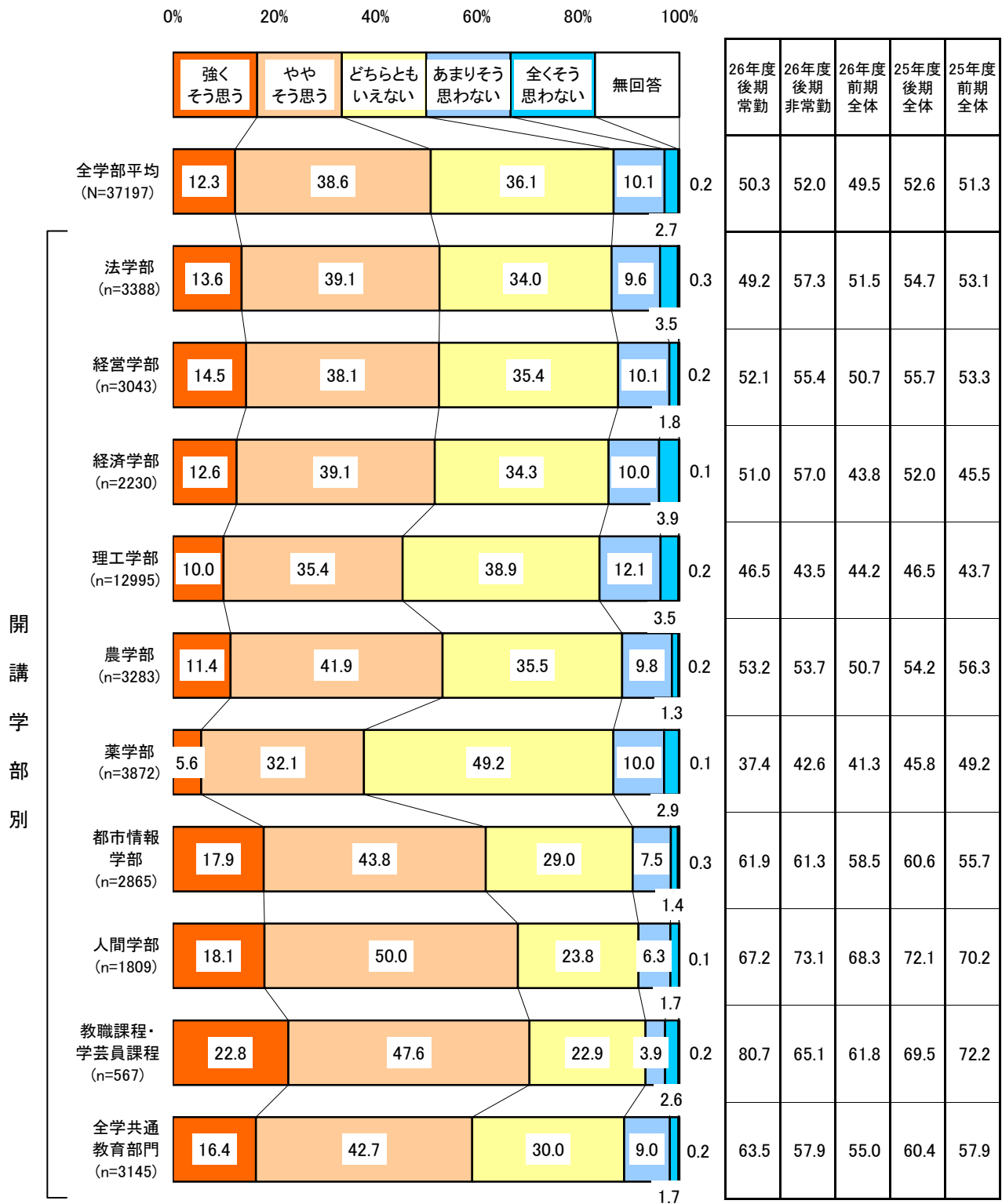
※数表は「強くそう思う」+「ややそう思う」(%)

# 12 基礎データ学生用設問 興味喚起

[学生]

授業によって、学問への興味・関心が引き起こされていると回答した学生は5割を超える。教職課程・学芸員課程、人間学部では7割前後にのぼり他学部を上回る。

【26年度後期】 Q11. この授業によって、学問への興味・関心が引き起こされている。※1  
 ※グラフは26年度後期のスコア



※数表は「強くそう思う」+「ややそう思う」(%)

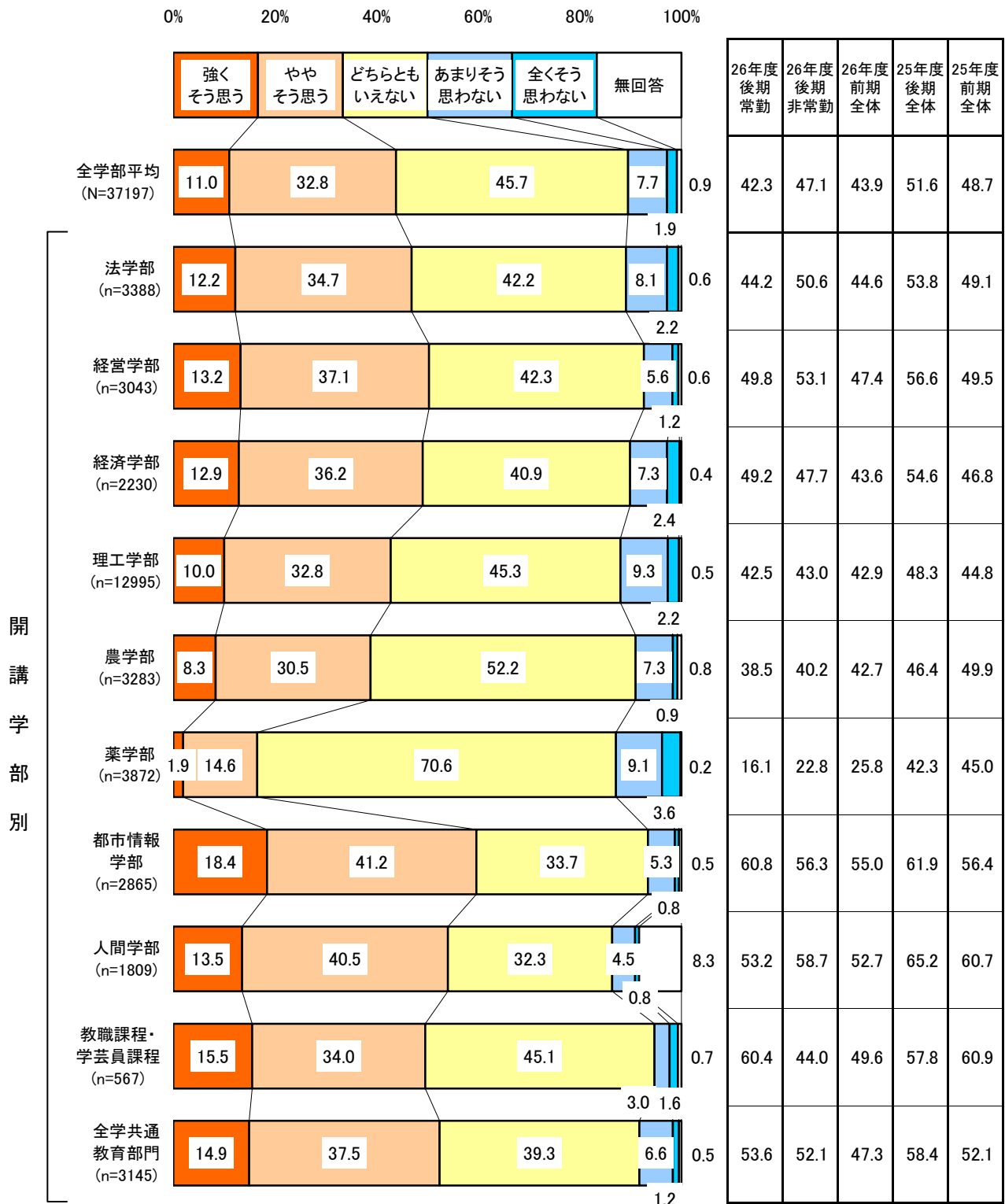
(※1)平成25年度は「この授業によって、学問への興味・関心が引き起こされた」で測定  
 (今回は「引き起こされた」→「引き起こされている」へ変更)

# 12 基礎データ学生用設問 目標到達

[学生]

4割強の学生が到達目標を達成できていると回答しており、都市情報学部では約6割にのぼる。

【26年度後期】 Q12. この授業で、自分はシラバスに示されている到達目標を達成できている。※1  
 ※グラフは26年度後期のスコア



※数表は「強く思う」+「やや思う」(%)

(※1)平成25年度は「この授業ではシラバスに示されている到達目標を達成できた」で測定  
 (今回は「自分は」を追加し、「達成できた」→「達成できている」へ変更)

平成26年度授業改善アンケート  
調査結果報告書

発行日：平成27年3月

編集：名城大学FD委員会  
名城大学大学教育開発センター

発行：名城大学FD委員会